

審査意見への対応を記載した書類（6月）

（目次） 児童教育学部 児童教育学科

【設置の趣旨・目的等】

1. ディプロマ・ポリシーを7つの学修成果と関連付けて説明しているが、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関連性が必ずしも明確ではないため、具体的に説明するとともに、両者の関連を示す資料についても併せて適切に改めること。また、カリキュラム・ポリシーに学修成果の評価の在り方等に関する具体的な記述が見受けられないことから、適切に改めること。（是正事項）…3

【教育課程等】

2. 養成する人材像、教育課程及び履修モデルの整合性が不明確であるため、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて履修モデルを見直すなど、適切に改めること。（是正事項）…14
 - （1）必修科目が多く設定され、特に指導法に関する授業科目について全員が履修する必要があると考えられる授業科目についても必修科目として設定されており、単位制度の実質化が伴っていないように見受けられることから、必要に応じて適切に改めること。
 - （2）必修科目にもかかわらず、専任教員が1人しか配置されていない授業科目があるため、クラス編成の方法や教員の負担への配慮について具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。
 - （3）履修モデルについて、卒業要件単位数を大幅に超えた単位数となっており、履修モデルとして適切でないと考えられることから、学生の負担の観点から妥当性・適切性を具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。
 - （4）履修モデルについて、組織としての教育ビジョンを明確にした上で、学生のキャリア形成を意識した履修モデルとなるよう見直しを行うこと。
 - （5）多様な履修モデルが示されている一方で、これらに対応した学生への履修指導についての説明が不十分なため、具体的に説明すること。
 - （6）「履修モデル⑦社会的実践力」について、教員免許や保育士資格の取得が想定されている他の履修モデルと比べて必要性が不明確であるため、その必要性について具体的に説明すること。
3. シラバスについて、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。（改善事項）…38
 - （1）幼児理解の学問的な基盤である「教育方法論（幼）」において、根幹となる「子ども理解」に関する授業計画の説明が不十分なため、必要に応じて当該科目の授業計画の構成及び記載を適切に改めること。
 - （2）「特別支援教育」「障がい児保育指導論」「教育相談」といった科目の説明も全般的に表面的な記載にとどまっているため、履修する学生の理解を促す観点から十分に説

明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

- (3) シラバスの記載について、授業科目名称に付されている A と B の関連性が授業科目間で統一されていないなど、不備が散見されるため、網羅的に確認を行い、適切に改めること。

4. 実習について、以下の点が不明確であるため、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。(改善事項) …45

- (1) 実習に参加する学生の規模や実習参加の決定プロセス、指導体制等が不明確であるため、明確に説明すること。
- (2) 実習の評価について、実習担当教員が「総合的に判断し、単位認定を行う」旨の説明があるが、評価の客観性が担保されているか不明確であるため、具体的かつ明確に説明すること。

【教員組織】

5. 専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。(改善事項) …48

【人材需要の社会的動向・学生確保の見通し】

6. 定員充足の根拠となる客観的なデータとして、近隣大学の教員・保育者養成系学部の志願状況を挙げているが、設置の必要性において当該地域には教員・保育者養成系学部を持つ大学が設置されていないと説明を行っていることとの整合性が必ずしも明確ではないため、その整合性について具体的に説明すること。…53

7. 付された意見以外の対応について
教員組織の変更理由…55

(是正事項) 児童教育学部 児童教育学科

【設置の趣旨・目的等】

1. ディプロマ・ポリシーを7つの学修成果と関連付けて説明しているが、ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーの関連性が必ずしも明確ではないため、具体的に説明するとともに、両者の関連を示す資料についても併せて適切に改めること。また、カリキュラム・ポリシーに学修成果の評価の在り方等に関する具体的な記述が見受けられないことから、適切に改めること。

(対応)

付された審査意見のうち、ディプロマ・ポリシー（以下「DP」）とカリキュラム・ポリシー（以下「CP」）の関連性を明確にするため、DPの各項目に対応するよう、CPを修正するとともに、両者の関連を示す資料である、設置の趣旨等を記載した書類の添付資料「「ディプロマ・ポリシー」と「カリキュラム・ポリシー」の関連図」を、『DPとCP（知識・理解）』、『DPとCP（汎用的技能）』、『DPとCP（態度・志向性）』ごとに整理する。

DP（知識・理解）

子どもとそれを取り巻く社会状況及び教育・保育の役割を理解するとともに、子どもの発達と学びを適切に支えることができる基礎的な知識を有している。

【学修成果：①社会理解、②教育・保育基礎理解】

CP（知識・理解）

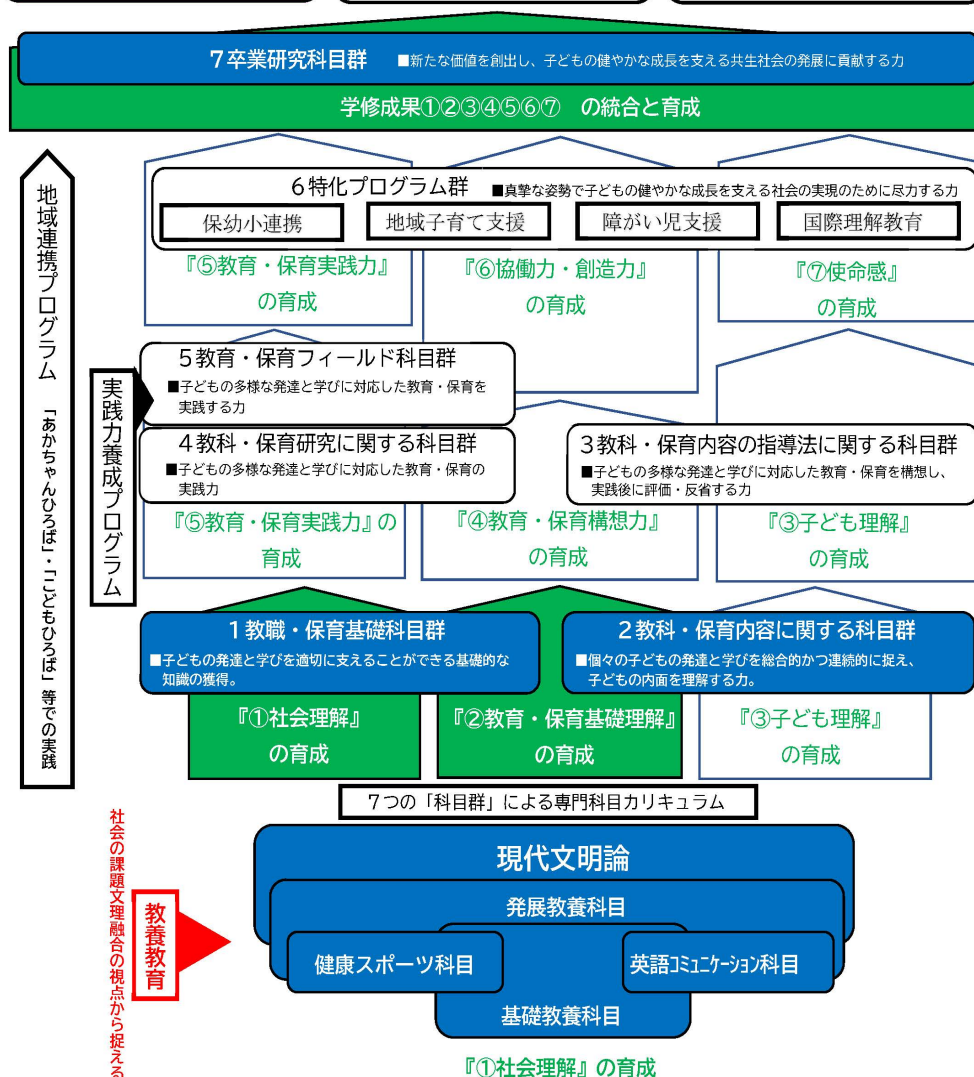
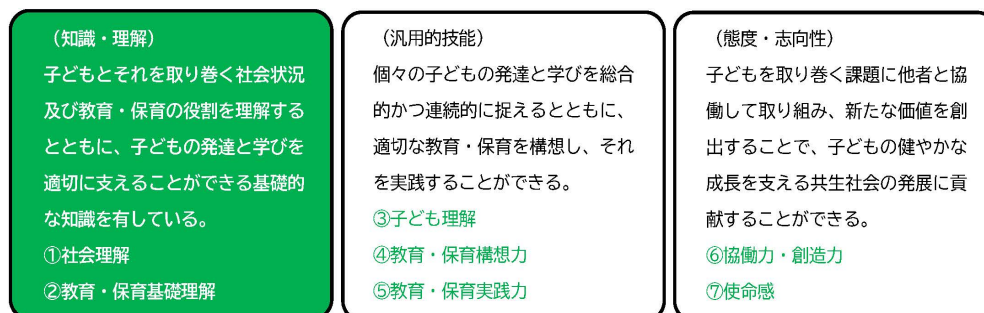
DP（知識・理解）を達成するため、区分Ⅰ「現代文明論」、区分Ⅱ「現代教養科目」（基礎教養科目・発展教養科目・健康スポーツ科目）、区分Ⅲ「英語科目」（英語コミュニケーション科目）における教養教育の学びをとおして、現在の複雑化した社会の課題に対し、文理融合的な幅広い視点から自らの考えを深め、行動していく姿勢を身につける。また、区分Ⅳ「主専攻科目」の「専門基礎科目」における、「1教職・保育基礎科目群」の教育・保育に関する原理、制度および方法等の基盤的な学びをとおして、子どもを取り巻く社会状況及び社会における教育・保育の役割への理解を深めるとともに、子どもの発達と学びを適切に支えることができる基礎的な知識を身につける。また、「2教科・保育内容に関する科目群」の教科に関する専門的事項、保育内容の各領域等の学びをとおして、子どもの発達と学びを適切に支えることができる基礎的な知識を基盤として、個々の子どもの発達と学びを総合的かつ連続的に捉え、子どもの内面を理解することができる力を身につける。

こうして身に付けた力と、別に述べる「DP（汎用的技能）」、「DP（態度・志向性）」で身に付けた力を、「7. 卒業研究科目群」において“個々の課題意識に応じた主体的研究姿勢に基づく学び”により集約し、「卒業研究レポート（論文）」としてまとめあげることにより、新たな価値を創出し、子どもの健やかな成長を支える共生社会の発展に貢献する力を身に付け、3つのDPによる力を総合的に獲得していく。

以上に対応した「「ディプロマ・ポリシー」と「カリキュラム・ポリシー」の関連図」は次のとおりである。

児童教育学部 「ディプロマ・ポリシー」と「カリキュラム・ポリシー」の関連図

■ディプロマ・ポリシーと学修成果



※図は科目区分で表記。科目レベルでは、ナンバリングにより履修順序等が分かるように体系化する。
※各科目の評価は、学修成果とリンクしたルーブリックを活用し、弱みと強みとを客観的に把握する。

D P（汎用的技能）

個々の子どもの発達と学びを総合的かつ連続的に捉えるとともに、適切な教育・保育を構想し、それを実践することができる。

【学修成果：③子ども理解、④教育・保育構想力、⑤教育・保育実践力】

C P（汎用的技能）

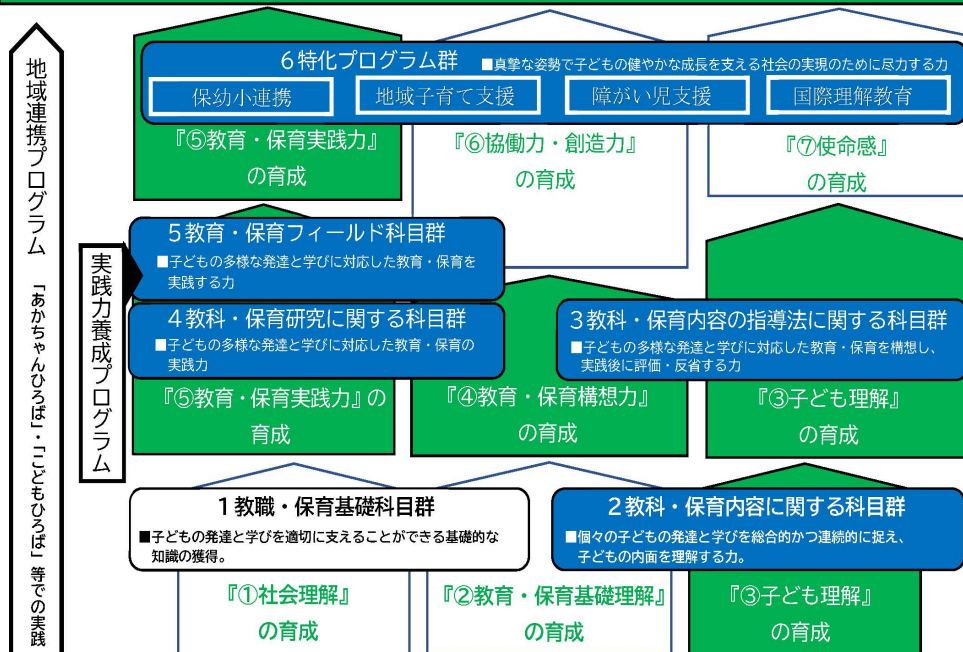
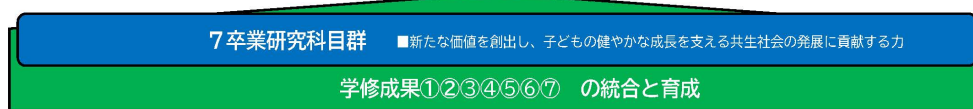
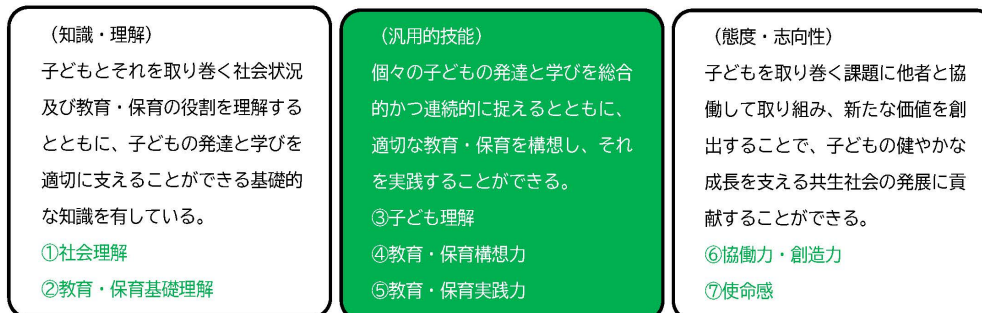
D P（汎用的技能）を達成するため、学修成果①②を踏まえ、区分Ⅳ「主専攻科目」の「専門応用・実践科目」における、「2教科・保育内容に関する科目群」および「3教科・保育内容の指導法に関する科目群」の各分野、各教科の専門性や、指導法等による、教育・保育実践のための基盤となる学びをとおして、個々の子どもの発達と学びを総合的かつ連続的に捉え、子どもの内面への理解を深め、それを基盤として、子どもの多様な発達と学びに対応した教育・保育を構想することができる力を身につける。「4教科・保育研究に関する科目群」の教材研究を深める学びをとおして、子どもの多様な発達と学びに対応した教育・保育の構想力を高め、教育・保育を実践するための基盤を形成する。また、「5教育・保育フィールド科目群」の観察、実践、実習といった、直接子どもと向き合った学びをとおして、子どもの多様な発達と学びに対応した教育・保育を構想し、それに沿った教育・保育を実践する力を身につけるとともに、実践後は評価・反省をとおして、その力を深めることができる。

こうして身に付けた力と、別に述べる「D P（知識・理解）」、「D P（態度・志向性）」で身に付けた力を、「7. 卒業研究科目群」において“個々の課題意識に応じた主体的研究姿勢に基づく学び”により集約し、「卒業研究レポート（論文）」としてまとめあげることにより、新たな価値を創出し、子どもの健やかな成長を支える共生社会の発展に貢献する力を身に付け、3つのD Pによる力を総合的に獲得していく。

以上に対応した「「ディプロマ・ポリシー」と「カリキュラム・ポリシー」の関連図」は次のとおりである。

児童教育学部 「ディプロマ・ポリシー」と「カリキュラム・ポリシー」の関連図

■ディプロマ・ポリシーと学修成果

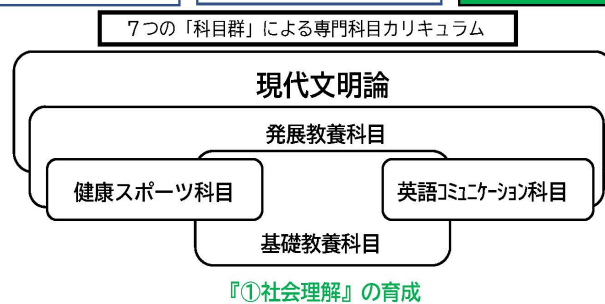


地域連携プログラム 「あかちゃんひろば」「こどもひろば」等での実践

実践力養成プログラム

社会の課題文理融合の視点から捉える。

教養教育



※図は科目区分で表記。科目レベルでは、ナンバリングにより履修順序等が分かるように体系化する。
※各科目の評価は、学修成果とリンクしたルーブリックを活用し、弱みと強みとを客観的に把握する。

DP（態度・志向性）

子どもを取り巻く課題に他者と協働して取り組み、新たな価値を創出することで、子どもの健やかな成長を支える共生社会の発展に貢献することができる。

【学修成果：⑥協働力・創造力、⑦使命感】

CP（態度・志向性）

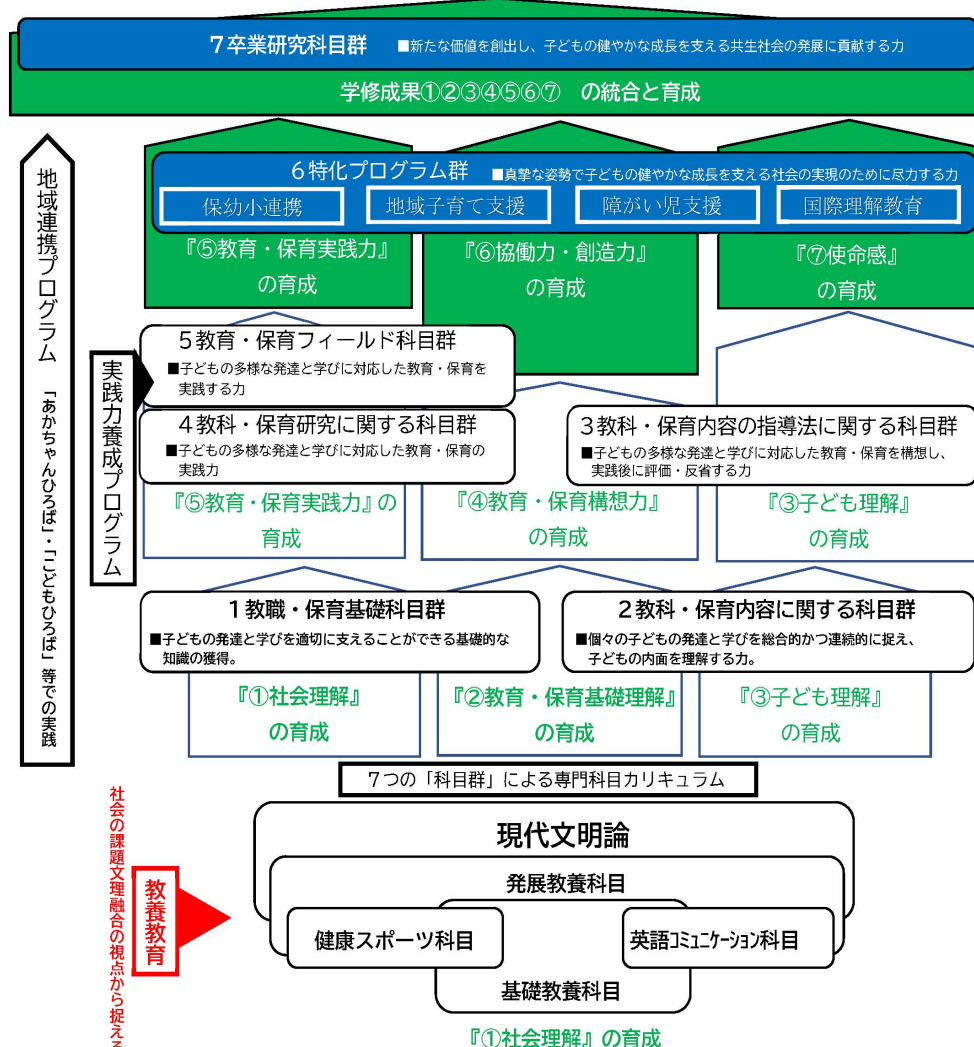
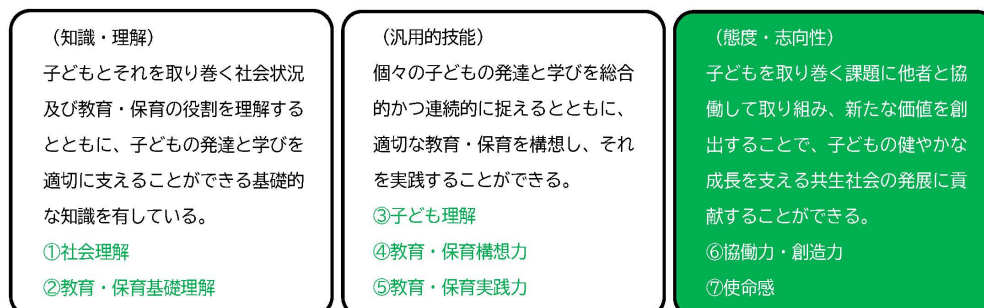
DP（態度・志向性）を達成するため、学修成果①②③④⑤を踏まえ、区分Ⅳ「主専攻科目」の「専門発展科目」における、「6 特化プログラム群」の教育・保育に関する現代的課題に対応した学びをとおして、子どもの多様な発達と学びに対応した教育・保育を実践し、そこでの課題に他者と積極的に関わりながら、それを乗り越え、真摯な姿勢で子どもの健やかな成長を支える社会の実現のために尽力する態度を身につける。

こうして身に付けた力と、別に述べる「DP（知識・理解）」、「DP（汎用的技能）」で身に付けた力を、「7. 卒業研究科目群」において“個々の課題意識に応じた主体的研究姿勢に基づく学び”により集約し、「卒業研究レポート（論文）」としてまとめあげることで、新たな価値を創出し、子どもの健やかな成長を支える共生社会の発展に貢献する力を身に付け、3つのDPによる力を総合的に獲得していく。

以上に対応した「ディプロマ・ポリシー」と「カリキュラム・ポリシー」の関連図は次のとおりである。

児童教育学部 「ディプロマ・ポリシー」と「カリキュラム・ポリシー」の関連図

■ディプロマ・ポリシーと学修成果



※図は科目区分で表記。科目レベルでは、ナンバリングにより履修順序等が分かるように体系化する。
※各科目の評価は、学修成果とリンクしたルーブリックを活用し、弱みと強みとを客観的に把握する。

付された審査意見のうち、“カリキュラム・ポリシーに学修成果の評価の在り方等に関する具体的な記述が見受けられない”との指摘に対しては、カリキュラム・ポリシーに次の内容を追記する。

■学修成果の評価方法と活用

成績評価は、科目単位で観点別「学修成果」(①～⑦)の評価結果(達成度)を行い、学生が身につけた資質・能力、学位プログラムとしての学修成果を「e-ポートフォリオシステム」を用いて可視化し、学生自身が学修成果を把握することに加え、学生への指導や、教育システムの改善につなげていく計画である。

具体的には、各科目に、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに定められた7つの「学修成果」を内容に応じて設定し、シラバスに記載する。このシラバスには、観点毎の評価比率、評価方法(ミニッツペーパー・小テスト、プレゼンテーション、実技・実践活動、レポート、定期試験などの成果を用いる)が明示されており、成績評価の際には、ルーブリック評価表を用いて、「学修成果」の観点毎に評価し、科目毎に定められる評価比率等に基づき、総合評価がなされる仕組みで運用していく。

これにより、学生自身が身に付けた力を把握できることに加えて、学位プログラム単位、学年単位、科目群単位等で集計することで、各単位における観点別学修成果結果(達成度)が可視化・評価できる仕組みを構築し、教育システムの改善、授業内容の改善を継続的に行っていく計画である。

DP・CP・各科目の学修成果と各科目における評価方法(まとめ)

ディプロマ・ポリシーごとに定める学修成果

- 知識・理解
学修成果：①社会理解、②教育・保育基礎理解
- 汎用的技能
学修成果：③子ども理解、④教育・保育構想力、⑤教育・保育実践力
- 態度・志向性
学修成果：⑥協働力・創造力、⑦使命感

カリキュラム・ポリシー(科目群ごと)に定める学修成果

- 1 教職・保育基礎科目群
学修成果：①社会理解、②教育・保育基礎理解
- 2 教科・保育内容に関する科目群
学修成果：②教育・保育基礎理解、③子ども理解
- 3 教科・保育内容の指導法に関する科目群
学修成果：③子ども理解、④教育・保育構想力
- 4 教科・保育研究に関する科目群
学修成果：④教育・保育構想力、⑤教育・保育実践力
- 5 教育・保育フィールド科目群
学修成果：④教育・保育構想力、⑤教育・保育実践力、⑥協働力・創造力、⑦使命感
- 6 特化プログラム群
学修成果：⑤教育・保育実践力、⑥協働力・創造力、⑦使命感
- 7 卒業研究科目群
学修成果：①社会理解、②教育・保育基礎理解、③子ども理解、④教育・保育構想力、⑤教育・保育実践力、⑥協働力・創造力、⑦使命感

科目ごとに定める学修成果と評価の方法(e-ポートフォリオシステムの運用)

各科目に、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに定められた7つの「学修成果」を内容に応じて設定し、シラバスに記載する。このシラバスには、観点毎の評価比率、評価方法(ミニッツペーパー・小テスト、プレゼンテーション、実技・実践活動、レポート、定期試験などの成果を用いる)が明示されており、成績評価の際には、ルーブリック評価表を用いて、「学修成果」の観点毎に評価し、科目毎に定められる評価比率等に基づき、総合評価がなされる仕組みで運用していく。

- ⇒学生自身が身に付けた力を把握していく。
- ⇒教育システムの改善、授業内容の改善を継続的にしていく。

以上の対応に基づき、「設置の趣旨等を記載した書類」を修正・追記するとともに、「「ディプロマ・ポリシー」と「カリキュラム・ポリシー」の関連図」を修正する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 22～24 ページ

新	旧
【カリキュラム・ポリシー】 ＜略＞ これらを踏まえて、以下の「教育課程編成の方針」(カリキュラム・ポリシー)を定めるが、<u>ディプロマ・ポリシーとの関連を明確にするため、ディプロマ・ポリシー(DP)とカリキュラム・ポリシー(CP)を並置して述べる。なお、カリキュラム・ポリシーには、学修成果の評価方法と活用についても述べる。</u> <u>DP(知識・理解)</u> <u>子どもとそれを取り巻く社会状況及び教育・保育の役割を理解するとともに、子どもの発達と学びを適切に支えることができる基礎的な知識を有している。</u> 【学修成果：①社会理解、②教育・保育基礎理解】 <u>CP(知識・理解)</u> <u>DP(知識・理解)を達成するため、区分Ⅰ「現代文明論」、区分Ⅱ「現代教養科目」(基礎教養科目・発展教養科目・健康スポーツ科目)、区分Ⅲ「英語科目」(英語コミュニケーション科目)における教養教育の学びをとおして、現在の複雑化した社会の課題に対し、文理融合的な幅広い視点から自らの考えを深め、行動していく姿勢を身につける。また、区分Ⅳ「主専攻科目」の「専門基礎科目」における、「1教職・保育基礎科目群」の教育・保育に関する原理、制度および方法等の基盤的な学びをとおして、子どもを取り巻く社会状況及び社会における教育・保育の役割への理解を深めるとともに、子どもの発達と学びを適切に支えることができる基礎的な知識を身につける。また、「2教科・保育内容に関する科目群」の教科に関する専門的事項、保育内容の各領域等の学びをとおして、子どもの発達と学びを適切に支えることができる基礎的な知識を基盤として、個々</u>	【カリキュラム・ポリシー】 ＜略＞ これらを踏まえて、以下の「教育課程編成の方針」(カリキュラム・ポリシー)を定める。 (知識・理解) 子どもとそれを取り巻く社会状況及び教育・保育の役割の理解、及び子どもの発達と学びを適切に支えることができる基礎的な知識を身につけるため、区分Ⅰ「現代文明論」、区分Ⅱ「現代教養科目」、区分Ⅲ「英語科目」、及び区分Ⅳ「主専攻科目」の中に「専門基礎科目」を設定し、教員・保育者としての基盤を形成する。

<u>の子どもの発達と学びを総合的かつ連続的に捉え、子どもの内面を理解することができる力を身につける。</u> <u>こうして身に付けた力と、別に述べる「D P（汎用的技能）」、「D P（態度・志向性）」で身に付けた力を、「7 卒業研究科目群」において“個々の課題意識に応じた主体的研究姿勢に基づく学び”により集約し、「卒業研究レポート（論文）」としてまとめあげることにより、新たな価値を創出し、子どもの健やかな成長を支える共生社会の発展に貢献する力を身に付け、3つのD Pによる力を総合的に獲得していく。</u> <u>D P（汎用的技能）</u> <u>個々の子どもの発達と学びを総合的かつ連続的に捉えるとともに、適切な教育・保育を構想し、それを実践することができる。</u> <u>【学修成果：③子ども理解、④教育・保育構想力、⑤教育・保育実践力】</u> <u>C P（汎用的技能）</u> <u>D P（汎用的技能）を達成するため、学修成果①②を踏まえ、区分Ⅳ「主専攻科目」の「専門応用・実践科目」における、「2 教科・保育内容に関する科目群」および「3 教科・保育内容の指導法に関する科目群」の各分野、各教科の専門性や、指導法等による、教育・保育実践のための基盤となる学びをとおして、個々の子どもの発達と学びを総合的かつ連続的に捉え、子どもの内面への理解を深め、それを基盤として、子どもの多様な発達と学びに対応した教育・保育を構想することができる力を身につける。「4 教科・保育研究に関する科目群」の教材研究を深める学びをとおして、子どもの多様な発達と学びに対応した教育・保育の構想力を高め、教育・保育を実践するための基盤を形成する。また、「5 教育・保育フィールド科目群」の観察、実践、実習といった、直接子どもと向き合った学びをとおして、子どもの多様な発達と学びに対応した教育・保育を構想し、それに沿った教育・保育を実践する力を身につけ</u>	（汎用的技能） 個々の子どもの発達と学びを総合的かつ連続的に捉え、適切な教育・保育を構想・実践するため、区分Ⅳ「主専攻科目」の中に「専門応用・実践科目」を設定し、現代の課題に対応した教育・保育実践ができるようにする。
--	--

るとともに、実践後は評価・反省をとおして、その力を深めることができる。 こうして身に付けた力と、別に述べる「D P (知識・理解)」、「D P (態度・志向性)」で身に付けた力を、「7 卒業研究科目群」において“個々の課題意識に応じた主体的研究姿勢に基づく学び”により集約し、「卒業研究レポート (論文)」としてまとめあげることにより、新たな価値を創出し、子どもの健やかな成長を支える共生社会の発展に貢献する力を身に付け、3つのD Pによる力を総合的に獲得していく。 <u>D P (態度・志向性)</u> 子どもを取り巻く課題に他者と協働して取り組み、新たな価値を創出することで、子どもの健やかな成長を支える共生社会の発展に貢献することができる。 <u>【学修成果：⑥協働力・創造力、⑦使命感】</u> <u>C P (態度・志向性)</u> D P (態度・志向性)を達成するため、学修成果①②③④⑤を踏まえ、区分Ⅳ「主専攻科目」の「専門発展科目」における、「6 特化プログラム群」の教育・保育に関する現代的課題に対応した学びをとおして、子どもの多様な発達と学びに対応した教育・保育を実践し、そこでの課題に他者と積極的に関わりながら、それを乗り越え、真摯な姿勢で子どもの健やかな成長を支える社会の実現のために尽力する態度を身につける。 こうして身に付けた力と、別に述べる「D P (知識・理解)」、「D P (汎用的技能)」で身に付けた力を、「7 卒業研究科目群」において“個々の課題意識に応じた主体的研究姿勢に基づく学び”により集約し、「卒業研究レポート (論文)」としてまとめあげることにより、新たな価値を創出し、子どもの健やかな成長を支える共生社会の発展に貢献する力を身に付け、3つのD Pによる力を総合的に獲得していく。 ■学修成果の評価方法と活用	(態度・志向性) 子どもを取り巻く課題に他者と協働して取り組み、新たな価値を創出するため、区分Ⅳ「主専攻科目」の中に「専門発展・実践科目」を設定し、子どもの健やかな成長を支える共生社会の発展に貢献できるようにする。
---	---

成績評価は、科目単位で観点別「学修成果」(①～⑦)の評価結果(達成度)を行い、学生が身につけた資質・能力、学位プログラムとしての学修成果を「e-ポートフォリオシステム」を用いて可視化し、学生自身が学修成果を把握することに加え、学生への指導や、教育システムの改善につなげていく計画である。

具体的には、各科目に、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに定められた7つの「学修成果」を内容に応じて設定し、シラバスに記載する。このシラバスには、観点毎の評価比率、評価方法(ミニツツペーパー・小テスト、プレゼンテーション、実技・実践活動、レポート、定期試験などの成果を用いる)が明示されており、成績評価の際には、ルーブリック評価表を用いて、「学修成果」の観点毎に評価し、科目毎に定められる評価比率等に基づき、総合評価がなされる仕組みで運用していく。

これにより、学生自身が身に付けた力を把握できることに加えて、学位プログラム単位、学年単位、科目群単位等で集計することで、各単位における観点別学修成果結果(達成度)が可視化・評価できる仕組みを構築し、教育システムの改善、授業内容の改善を継続的に行っていく計画である。

DP・CP・各科目の学修成果と各科目における評価方法(まとめ)

ディプロマ・ポリシーごとに定める学修成果

- 知識・理解
学修成果：①社会理解、②教育・保育基礎理解
- 汎用的技能
学修成果：③子ども理解、④教育・保育構想力、⑤教育・保育実践力
- 態度・志向性
学修成果：⑥協働力・創造力、⑦使命感

カリキュラム・ポリシー(科目群ごと)に定める学修成果

- 1 教職・保育基礎科目群
学修成果：①社会理解、②教育・保育基礎理解
- 2 教科・保育内容に関する科目群
学修成果：②教育・保育基礎理解、③子ども理解
- 3 教科・保育内容の指導法に関する科目群
学修成果：③子ども理解、④教育・保育構想力
- 4 教科・保育研究に関する科目群
学修成果：④教育・保育構想力、⑤教育・保育実践力
- 5 教育・保育フィールド科目群
学修成果：④教育・保育構想力、⑤教育・保育実践力、⑥協働力・創造力、⑦使命感
- 6 特化プログラム群
学修成果：⑤教育・保育実践力、⑥協働力・創造力、⑦使命感
- 7 卒業研究科目群
学修成果：①社会理解、②教育・保育基礎理解、③子ども理解、④教育・保育構想力、⑤教育・保育実践力、⑥協働力・創造力、⑦使命感

科目ごとに定める学修成果と評価の方法(e-ポートフォリオシステムの運用)

各科目に、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに定められた7つの「学修成果」を内容に応じて設定し、シラバスに記載する。このシラバスには、観点毎の評価比率、評価方法(ミニツツペーパー・小テスト、プレゼンテーション、実技・実践活動、レポート、定期試験などの成果を用いる)が明示されており、成績評価の際には、ルーブリック評価表を用いて、「学修成果」の観点毎に評価し、科目毎に定められる評価比率等に基づき、総合評価がなされる仕組みで運用していく。

- ⇒学生自身が身に付けた力を把握していく。
- ⇒教育システムの改善、授業内容の改善を継続的に行っていく。

(是正事項) 児童教育学部 児童教育学科

2. 養成する人材像、教育課程及び履修モデルの整合性が不明確であるため、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて履修モデルを見直すなど、適切に改めること。

(1) 必修科目が多く設定され、特に指導法に関する授業科目について全員が履修する必要があると考えられる授業科目についても必修科目として設定されており、単位制度の実質化が伴っていないように見受けられることから、必要に応じて適切に改めること。

(2) 必修科目にもかかわらず、専任教員が1人しか配置されていない授業科目があるため、クラス編成の方法や教員の負担への配慮について具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(3) 履修モデルについて、卒業要件単位数を大幅に超えた単位数となっており、履修モデルとして適切でないと考えられることから、学生の負担の観点から妥当性・適切性を具体的に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(4) 履修モデルについて、組織としての教育ビジョンを明確にした上で、学生のキャリア形成を意識した履修モデルとなるよう見直しを行うこと。

(5) 多様な履修モデルが示されている一方で、これらに対応した学生への履修指導についての説明が不十分なため、具体的に説明すること。

(6) 「履修モデル⑦社会的実践力」について、教員免許や保育士資格の取得が想定されている他の履修モデルと比べて必要性が不明確であるため、その必要性について具体的に説明すること。

(対応)

審査意見2. に対応するにあたり、対応の全体的な考え方について説明する。

児童教育学部の教育課程は、養成する人材像及び審査意見1. への対応において示したDP、CPの達成のために、1、2年次において、教育・保育の基盤的な資質能力を確実に身につけさせるために、必修科目を設定している。今回の審査意見を受けて、教育・保育の基盤的な資質能力を確実に身につけさせる教育システムを担保し、予習・復習の時間等を確保しつつ、学生がより主体的な履修選択ができるよう、必修科目を削減する教育課程の一部見直しを行う。

併せて、履修モデルは124単位の卒業要件単位数を基本とし、学生の希望に応じて、幼稚園教諭、小学校教諭、保育士の資格取得を目指すことができるよう、指導しやすく整理する。

なお、学生の希望によっては、124単位の卒業要件単位数を超えるが、予習・復習の時間を確保し、教員、学生にとって過度な負担がないように、授業を運営する体制を維持していく。

以上の考えに基づき、付された意見について、次のとおり対応する。

(1) への対応

付された意見を踏まえ、改めて教育課程を見直した結果、「3教科・保育内容の指導法に関する科目群」のうち、必修科目として設定していた④「人間関係の指導法」(2単位)、⑤「環境の指導法」(2単位)、⑥「初等生活科教育法」(2単位)、⑦「初等国語科教育法」

(2単位)、㉔「総合的な学習の時間の指導法(小)」(2単位)、「1教職・保育基礎科目群」のうち、㉕「情報機器活用の理論と方法」(1単位)、㉖「社会的養護」(2単位)、合計7科目13単位を選択科目に変更する。

具体的な修得方法として、上記㉓及び㉔の5科目を、既に設定している2つの選択必修科目のグループに振分け、学生の選択状況により履修させる計画である。なお、㉕の2科目は選択必修科目としない。

■㉓「人間関係の指導法」(2単位)、㉔「環境の指導法」(2単位)の履修方法
(変更前)

「健康の指導法」「言葉の指導法」「表現(造形)の指導法」「表現(音楽)の指導法」の、合計4科目8単位のうち、6単位を修得する。

(変更後)

「健康の指導法」「言葉の指導法」「表現(造形)の指導法」「表現(音楽)の指導法」に「人間関係の指導法」「環境の指導法」の2科目を加え、合計6科目12単位のうち6単位を修得する。

■㉔「初等生活科教育法」(2単位)、㉕「初等国語科教育法」(2単位)、㉖「総合的な学習の時間の指導法(小)」(2単位)の履修方法

これらの「指導法に関する授業科目」は、DP(汎用的技能)として設定された「個々の子どもの発達と学びを総合的かつ連続的に捉えるとともに、適切な教育・保育を構想し、それを実践することができる。」を達成するため、「2教科・保育内容に関する科目群」で選択した科目、学んだ内容に合わせて「実践方法」を学んでいく重要な科目であることから、以下のとおり<選択必修科目>として設定し、「2教科・保育内容に関する科目群」で学生が選択した科目に合わせて選択できるように考慮し、卒業に必要な単位数の124単位の範囲内で予習・復習時間を確保して学修を進められるように変更する。

(変更前)

「初等音楽科教育法」「初等図画工作科教育法」「初等算数科教育法」「特別活動の指導法(小)」
「初等社会科教育法」「初等理科教育法」「初等家庭科教育法」「初等体育科教育法」「初等英語科教育法」「道徳の指導法(小)」「生徒指導論(小)」「進路指導論(小)」の、合計12科目21単位のうち、10単位を修得する。

(変更後)

「初等音楽科教育法」「初等図画工作科教育法」「初等算数科教育法」「特別活動の指導法(小)」
「初等社会科教育法」「初等理科教育法」「初等家庭科教育法」「初等体育科教育法」「初等英語科教育法」「道徳の指導法(小)」「生徒指導論(小)」「進路指導論(小)」に、「初等生活科教育法」「初等国語科教育法」「総合的な学習の時間の指導法(小)」を加え、合計15科目27単位のうち、16単位を修得する。

なお、以上述べてきた 7 科目 13 単位を選択科目に変更することにより、教育・保育の基盤的な資質能力を確実に身につけさせる教育システムの維持に支障は生じない。

以上の対応に基づき、「教育課程等の概要」、「設置の趣旨等を記載した書類」を修正・追記する。

(新旧対照表) 教育課程等の概要

新	旧
卒業要件及び履修方法 以下の合計で 124 単位以上修得する。 (履修科目の登録の上限：24 単位 (1 学期)) ☐ 科目区分Ⅰ 現代文明論 (必修科目) 2 単位修得 ☐ 科目区分Ⅱ 現代教養科目 (必修科目) 12 単位修得 ☐ 科目区分Ⅲ 英語科目 (必修科目) 4 単位修得 ☐ 科目区分Ⅳ 主専攻科目 (必修科目) <u>54 単位修得</u> ☐ 科目区分Ⅳ 主専攻科目 (選択必修科目) <u>22 単位修得</u> ☐ 科目区分Ⅳ 主専攻科目 (選択科目)・他学部 他学科科目 <u>30 単位修得</u> 合計 124 単位修得 <必修科目> ■設定された必修科目を修得する。(計 54 単位) <選択必修科目> ■科目区分Ⅳ 主専攻科目 「専門応用・実践科目」の「3 教科・保育内 容の指導法に関する科目群」のうち、「初等音 楽科教育法」「初等図画工作科教育法」「初等算 数科教育法」「初等生活科教育法」「特別活動の 指導法 (小)」 <u>「初等国語科教育法」</u> 「初等社会 科教育法」「初等理科教育法」「初等家庭科教育 法」「初等体育科教育法」「初等英語科教育法」 「 <u>道徳の指導法 (小)</u> 」「 <u>総合的な学習の時間の</u>	卒業要件及び履修方法 以下の合計で 124 単位以上修得する。 (履修科目の登録の上限：24 単位 (1 学期)) ☐ 科目区分Ⅰ 現代文明論 (必修科目) 2 単位修得 ☐ 科目区分Ⅱ 現代教養科目 (必修科目) 12 単位修得 ☐ 科目区分Ⅲ 英語科目 (必修科目) 4 単位修得 ☐ 科目区分Ⅳ 主専攻科目 (必修科目) 67 単位修得 ☐ 科目区分Ⅳ 主専攻科目 (選択必修科目) 16 単位修得 ☐ 科目区分Ⅳ 主専攻科目 (選択科目)・他学部 他学科科目 23 単位修得 合計 124 単位修得 <必修科目> ■設定された必修科目を修得する。(計 67 単位) <選択必修科目> ■科目区分Ⅳ 主専攻科目 「専門応用・実践科目」の「3 教科・保育内 容の指導法に関する科目群」のうち、「初等音 楽科教育法」「初等図画工作科教育法」「初等算 数科教育法」「特別活動の指導法 (小)」 <u>「初等 社会科教育法」「初等理科教育法」「初等家庭科 教育法」「初等体育科教育法」「初等英語科教育 法」「道徳の指導法 (小)」</u> 「生徒指導論 (小)」 「 <u>進路指導論 (小)</u> 」から 10 単位を修得する。

<u>指導法（小）」「生徒指導論（小）」「進路指導論（小）」から 16 単位を修得する。</u> ■科目区分Ⅳ主専攻科目 「専門基礎科目」の「2 教科・保育内容に関する科目群」のうち、「子ども家庭支援の心理学」「専門応用・実践科目」の「3 教科・保育内容の指導法に関する科目群」のうち、「<u>人間関係の指導法</u>」「<u>環境の指導法</u>」「<u>健康の指導法</u>」「<u>言葉の指導法</u>」「<u>表現（造形）の指導法</u>」「<u>表現（音楽）の指導法</u>」 以上から 6 単位を修得する。（計 22 単位） <選択科目> ■設定された選択科目、選択必修科目の余剰科目（計 30 単位）	■科目区分Ⅳ主専攻科目 「専門基礎科目」の「2 教科・保育内容に関する科目群」のうち、「子ども家庭支援の心理学」「専門応用・実践科目」の「3 教科・保育内容の指導法に関する科目群」のうち、「<u>健康の指導法</u>」「<u>言葉の指導法</u>」「<u>表現（造形）の指導法</u>」「<u>表現（音楽）の指導法</u>」以上から 6 単位を修得する。（計 16 単位） <選択科目> ■設定された選択科目、選択必修科目の余剰科目（計 23 単位）
---	---

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（29～35 ページ）

新	旧
5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 <略> 2) 教育方法（修得すべき単位数と必選別の構成と考え方） <略> ⑧専門教育（区分Ⅳ「主専攻科目」）のうち「専門基礎科目」（「1 教職・保育基礎科目群」、「2 教科・保育内容に関する科目群」）は、学修成果「①社会理解」「②教育・保育基礎理解」「③子ども理解」の修得に重点を置くことで、<u>子どもとそれを取り巻く社会についての基盤的知見を確実に身につけられるようにするため、46 単位（上表②）を「必修」とする。</u> ©「専門応用・実践科目」は、<u>実際に子どもに関わるための実践の基礎を学ぶ科目であり、</u>学生の学びの方向性に応じて、基礎から応用、そして実践力を身に付けられるように、決められたグループの科目（一部「2 教科・保育内容に関する科目群」の科目を含む）から <u>22 単位（上表③）</u>を選択し修得する「選択必修」を設定する。	5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 <略> 2) 教育方法（修得すべき単位数と必選別の構成と考え方） <略> ⑧専門教育（区分Ⅳ「主専攻科目」）のうち「専門基礎科目」（「1 教職・保育基礎科目群」、「2 教科・保育内容に関する科目群」）は、学修成果「①社会理解」の修得に重点を置くことで、子どもとそれを取り巻く社会についての知見を基盤として身につけられるようにするため、49 単位（上表②）を「必修」とする。 ©「専門応用・実践科目」においては、実際に子どもに関わるための実践の基礎学ぶ科目について、特にその中核となる「子どもを連続的に捉える力」を身に付けるために必要不可欠な科目については 5 科目 10 単位（上表③）を「必修」とする。さらに学生の学びの方向性に応じて、基礎から応用、そして実践力を身に付けられるように、決められたグループの科目（一部

⑩「専門発展科目」の「7卒業研究科目群」は、自らの学びの集大成として8単位（<u>上表④</u>）を「必修」とする。 ⑪学生個々の進路、方向性、必要性、興味関心等に応じて、専門科目に設定された選択科目、他学部学科で開講される科目など <u>30 単位（上表⑤）</u>を「選択」として修得していく。 ＜略＞ この結果、「必修科目」<u>72 単位</u>、「選択必修科目」<u>22 単位</u>、「選択科目」<u>30 単位</u>、計 124 単位を卒業要件とする学位プログラムとなっている。 ＜略＞ 3）教育方法（各科目区分の考え方） ＜略＞ ④区分Ⅳ「主専攻科目」（専門科目） ③段階的カリキュラム構造による子どもの発達段階に応じた子ども理解と対応力の形成 ＜略＞ 「1教職・保育基礎科目群」、「2教科・保育内容に関する科目群」の開設科目（45科目）のうち、<u>32科目</u>が必修科目となっており、確実に、学修成果「①社会理解」、「②教育・保育基礎理解」、「③子ども理解」といった教育・保育に関する基盤的な力を形成できるようにしている。 また、<u>学生の学びの方向性に応じて、基礎から応用、そして実践力を身に付けられるように、「2教科・保育内容に関する科目群」及び「3教科・保育内容の指導法に関する科目群」</u>において決められたグループの科目（22科目）を選択必修科目とし、時代のニーズに応じた教育・保育に係る力を形成できるようにしている。 ＜略＞ ④「必修科目」と「選択科目」の設定 「必修科目」 ＜略＞	「2教科・保育内容に関する科目群」の科目を含む）から 16 単位（上表④）を選択し修得する「選択必修」として設定する。 ⑩「専門発展科目」の「7卒業研究科目群」は、自らの学びの集大成として8単位（上表⑤）を「必修」とする。 ⑪学生個々の進路、方向性、必要性、興味関心等に応じて、専門科目に設定された選択科目、他学部学科で開講される科目など 23 単位（上表⑥）を「選択」として修得していく。 ＜略＞ この結果、「必修科目」85 単位、「選択必修科目」16 単位、「選択科目」23 単位、計 124 単位を卒業要件とする学位プログラムとなっている。 ＜略＞ 3）教育方法（各科目区分の考え方） ＜略＞ ④区分Ⅳ「主専攻科目」（専門科目） ③段階的カリキュラム構造による子どもの発達段階に応じた子ども理解と対応力の形成 ＜略＞ 「1教職・保育基礎科目群」、「2教科・保育内容に関する科目群」の開設科目（45科目）のうち、34科目が必修科目となっており、確実に、学修成果「①社会理解」、「②教育・保育基礎理解」、「③子ども理解」といった教育・保育に関する基盤的な力を形成できるようにしている。 また、「3教科・保育内容の指導法に関する科目群」についても、児童教育学部が目指す「子どもを連続的に捉える力」の形成に特に重要となる科目（5科目）については、必修科目とし、時代のニーズに応じた教育・保育に係る力を形成できるようにしている。 ＜略＞ ④「必修科目」と「選択科目」の設定 「必修科目」 ＜略＞
--	---

社会との関わりを重視する「教養科目」、及び「専門科目」の「専門基礎科目」から、社会との関わりを踏まえ教育・保育の基盤について学ぶ「1 教職・保育基礎科目群」、「2 教科・保育内容に関する科目群」の科目を必修科目とした。 さらに、学位プログラムの総集編ともいうべき、「専門発展科目」の「7 卒業研究科目群」についても、社会に向けて、自らの学びをどのように位置付けるかを修める意味において必修科目とし、以上の <u>72 単位</u>をもって「必修科目」を設定した。 「選択科目」（選択必修科目・選択科目） そのため「3 教科・保育の指導法に関する科目群」を中心に、「2 教科・保育内容に関する科目群」の一部の科目を合わせた指定されたグループの科目から、自分の興味や学びの方向性に合わせて <u>22 単位</u>を選択し修得する「選択必修科目」を設定する。加えて、「必修科目」、上記の「選択必修科目」以外に、「選択科目」として <u>30 単位</u>を定める。	社会との関わりを重視する「教養科目」、及び「専門科目」の「専門基礎科目」から、社会との関わりを踏まえ教育・保育の基盤について学ぶ「1 教職・保育基礎科目群」、「2 教科・保育内容に関する科目群」を中心に必修科目とした。また、「専門応用・実践科目」、「3 教科・保育内容の指導法に関する科目群」のうち、児童教育学部の目指す「子どもを連続的に捉える力」の形成に強く関わる科目についても必修科目とした。 さらに、学位プログラムの総集編ともいうべき、「専門発展科目」の「7 卒業研究科目群」についても、社会に向けて、自らの学びをどのように位置付けるかを修める意味において必修科目とし、以上の <u>85 単位</u>をもって「必修科目」を設定した。 「選択科目」（選択必修科目・選択科目） そのため「3 教科・保育の指導法に関する科目群」を中心に、「2 教科・保育内容に関する科目群」の一部の科目を合わせた指定されたグループの科目から、自分の興味や学びの方向性に合わせて <u>16 単位</u>を選択し修得する「選択必修科目」を設定する。加えて、「必修科目」、上記の「選択必修科目」以外に、「選択科目」として <u>23 単位</u>を定める。
--	---

（２）への対応

児童教育学科の専門科目のクラス編成の方法は次のとおりである。

講義形態が「演習」の科目はすべて３クラス編成、「講義」科目も教育効果を考慮して、２ないし３クラス編成を基本としている。２クラス編成の場合は、１クラス最大 75 名、３クラス編成の場合は、１クラス最大 50 名の履修者を想定して編成している。

なお、初年次教育として位置付けられる「入門ゼミナールＡ」及び「入門ゼミナールＢ」は、１クラス 25 名程度、教員免許及び保育士取得に係る資質能力の形成を確認する「教職・保育実践演習（幼・小・保）」については、１クラス 20 名以内を想定して編成している。

以上により、教育効果に支障がないよう編成している。

また、教員の負担状況を説明するため、完成年度における、専任教員ごとの授業科目の担当状況等のスケジュールを記載した「教員スケジュール」を示す。

教員スケジュール 春学期 ※赤字は必修科目で専任教員1名により担当する科目 黄色は研究日（会議、オフィスアワー対応を含む）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
山本	1 2前半) 初等国語研究 3前半) 初等国語研究 4	1 教育実習指導 (小学校) 2 教育実習指導 (小学校) 3 教育実習指導 (小学校) 4	1 2 3 4		1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3 4 入門ゼミナール A	
森原	1 保育原理 2 保育原理 3 保育原理 4	1前半) 音楽 2前半) 音楽 3前半) 音楽 4	1 2 3 4		1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3 4	
中上	1 2後半) 初等英語研究 3後半) 初等英語研究 4		1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3 4		1 2 3 4	
小池	1 保育実習指導 (施設) 2 保育実習指導 (施設) 3 保育実習指導 (施設) 4	1 保育実習指導 2 2 保育実習指導 2 3 保育実習指導 2 4	1 保育の心理学 2 保育の心理学 3 保育の心理学 4		1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3 4 入門ゼミナール A	
城	1 教育制度論 (幼・小) 2 教育制度論 (幼・小) 3 4			1 教育・保育インターンシップ A 2 教育・保育インターンシップ A 3 入門ゼミナール A 4	1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3 4	1 教職論 (幼・小) 2 教職論 (幼・小) 3 4
佐藤		1 表現 (造形) の指導法 2 表現 (造形) の指導法 3 表現 (造形) の指導法 4	1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3後半) 初等図工研究 4	1 2 3後半) 初等図工研究 4 地域連携ボランティア	1前半) 初等図画工作/後半) 表現 (造形) 2前半) 初等図画工作/後半) 表現 (造形) 3前半) 初等図画工作/後半) 表現 (造形) 4	
内山			1 2 3 4	1前半) 特別活動の指導法 (小) 2前半) 特別活動の指導法 (小) 3 4	1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3 4	1前半) 初等社会研究/後半) 進指導論 (小) 2前半) 初等社会研究/後半) 進指導論 (小) 3 4
宮家	1前半) 初等生活研究 2前半) 初等生活研究 3 4		1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3 初等生活科教育法 4	1 2 3 4 継続期カリキュラム研究 A	1 2 3 初等生活科教育法 4 初等生活科教育法	
神戸	1 初等算数科教育法 2 初等算数科教育法 3 初等算数科教育法 4	1 教育実習指導 (小学校) 2 教育実習指導 (小学校) 3 教育実習指導 (小学校) 4	1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3 初等) 初等算数研究 4	1 教育・保育インターンシップ A 2 教育・保育インターンシップ A 3前半) 初等算数研究 4		
森財			1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3 4	2 入門ゼミナール A 3 4	1 2 3 4	1前半) 初等理科研究 2前半) 初等理科研究 3 4
前田	1 教育原理 (幼・小) 2 教育原理 (幼・小) 3 教育原理 (幼・小) 4	1 2 3 4	1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3 4	1 2 入門ゼミナール A 3 4		
庄司			1 2 3前半) 生徒指導論 (小) 4	1 2 3前半) 生徒指導論 (小) 4	1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3 4	1 2 子ども家庭支援の心理学 3 子ども家庭支援の心理学 4 子ども家庭支援の心理学
岡戸	1 保育実習指導 1 (施設) 2 保育実習指導 1 (施設) 3 保育実習指導 1 (施設) 4			1 2 3 4	1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3 4	1 特別支援教育 (幼・小) 2 特別支援教育 (幼・小) 3 特別支援教育指導論 4
田中	1 教育方法論 (小) 2 教育方法論 (小) 3 4	1 2 3 4	1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3 4	1 2 3 入門ゼミナール A 4		
木戸	1 保育内容研究 B 2 3 保育内容研究 B 4	1 環境の指導法 2 環境の指導法 3 環境の指導法 4		1 2 3 4	1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3 4	
天野		1 2 3 4	1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3 4	1 2 3 4	1 人間関係の指導法 2 人間関係の指導法 3 人間関係の指導法 4	
尾黒	1 保育実習指導 1 (施設) 2 保育実習指導 1 (施設) 3 保育実習指導 1 (施設) 4	1 2 3 4	1 社会福祉 2 社会福祉 3 社会福祉 4		1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3 4	
及川	研究日 (会議、オフィスアワー対応を含む)	1 保育実習指導 2 2 保育実習指導 2 3 保育実習指導 2 4	1前半) 保育内容総論 2前半) 保育内容総論 3前半) 保育内容総論 4	1 保育者論 2 保育者論 3 保育者論 4	1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3 4	
石井	1 2 3 4	1 保育実習指導 2 2 保育実習指導 2 3 保育実習指導 2 4	1 子育て支援実習 A 2 3 4	1前半) 子育て支援/後半) 乳児保育演習 2前半) 子育て支援/後半) 乳児保育演習 3前半) 子育て支援/後半) 乳児保育演習 4		
三沢	1後半) 初等音楽研究 2後半) 初等音楽研究 3 4	1 表現 (音楽) の指導法 2 表現 (音楽) の指導法 3 表現 (音楽) の指導法 4	1前半) 表現 (音楽)/後半) 初等音楽 2前半) 表現 (音楽)/後半) 初等音楽 3前半) 表現 (音楽)/後半) 初等音楽 4		1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3 4	
鍋引	1 保育内容研究 B 2 3 保育内容研究 B 4	1後半) 健康 2後半) 健康 3後半) 健康 4	1 卒業研究 1 2 発展ゼミナール 1 3後半) 初等体育研究 4	1 2 3後半) 初等体育研究 4		

教員スケジュール 秋学期 ※赤字は必修科目で専任教員1名により担当する科目 黄色は研究日（会議、オフィスアワー対応を含む）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
山本		1 2 教職保育実践演習（幼・小・保） 3 教職保育実践演習（幼・小・保） 4	1 前半）初等国語 2 前半）初等国語 3 入門ゼミナールB 4	1 初等国語科教育法 2 初等国語科教育法 3 初等国語科教育法 4	1 卒業研究 2 2 発展ゼミナール 2 3 子どもと文学 4	
桑原	1 言葉の指導法 2 言葉の指導法 3 言葉の指導法 4		1 保育内容研究 A 2 3 保育内容研究 A 4	1 教育実習指導（幼稚園） 2 教育実習指導（幼稚園） 3 教育実習指導（幼稚園） 4	1 卒業研究 2 2 発展ゼミナール 2 3 子どもと文学 4	
中上	1 初等英語科教育法 2 初等英語科教育法 3 初等英語科教育法 4	1 2 教職保育実践演習（幼・小・保） 3 教職保育実践演習（幼・小・保） 4	1 前半）初等英語 2 前半）初等英語 3 4		1 卒業研究 2 2 発展ゼミナール 2 3 4	
小池	1 保育実習指導 1（保育園） 2 保育実習指導 1（保育園） 3 保育実習指導 1（保育園） 4	1 2 教職保育実践演習（幼・小・保） 3 教職保育実践演習（幼・小・保） 4	1 2 3 入門ゼミナールB 4		1 卒業研究 2 2 発展ゼミナール 2 3 4	
誠	1 2 3 4	1 2 教職保育実践演習（幼・小・保） 3 教職保育実践演習（幼・小・保） 4	1 入門ゼミナールB 2 3 卒業研究 2 4 発展ゼミナール 2	1 教育・保育インターンシップB 2 教育・保育インターンシップB 3 4		
佐藤	1 2 3 4	1 初等図工科教育法 2 初等図工科教育法 3 初等図工科教育法 4	1 2 3 卒業研究 2 4 発展ゼミナール 2	1 2 3 4		
内山	1 初等社会科教育法 2 初等社会科教育法 3 初等社会科教育法 4		1 後半）初等社会 2 後半）初等社会 3 4		1 卒業研究 2 2 発展ゼミナール 2 3 4	1 総合的な学習の時間の指導法 2 総合的な学習の時間の指導法 3 4
賀来		1 2 教職保育実践演習（幼・小・保） 3 教職保育実践演習（幼・小・保） 4	1 後半）初等生活 2 後半）初等生活 3 4	1 2 3 接続カリキュラム研究B 4	1 卒業研究 2 2 発展ゼミナール 2 3 4	
神戸		1 2 教職保育実践演習（幼・小・保） 3 教職保育実践演習（幼・小・保） 4		1 教育・保育インターンシップB 2 教育・保育インターンシップB3 3 4	1 卒業研究 2 2 発展ゼミナール 2 3 4	1 前半）初等算数 2 前半）初等算数 3 4
露井		1 初等理科教育法 2 初等理科教育法 3 初等理科教育法 4	1 2 入門ゼミナールB 3 卒業研究 2 4 発展ゼミナール 2	1 2 3 4	1 前半）初等理科 2 前半）初等理科 3 前半）初等理科 4	
前田	1 幼児教育原理 2 幼児教育原理 3 4	1 保育の歴史 2 教職保育実践演習（幼・小・保） 3 教職保育実践演習（幼・小・保） 4	1 2 入門ゼミナールB 3 卒業研究 2 4 発展ゼミナール 2	1 2 3 4		
庄司			1 2 3 卒業研究 2 4 発展ゼミナール 2	1 2 3 4	1 教育相談（幼・小） 2 3 教育相談（幼・小） 4	1 教育心理学（幼・小） 2 教育心理学（幼・小） 3 4
岡戸	1 2 障がい児保育指導論 3 4		1 2 3 卒業研究 2 4 発展ゼミナール 2	1 2 3 4	1 障がい児保育 2 障がい児保育 3 障がい児保育 4	
岡中	1 教育課程論（幼・小） 2 教育課程論（幼・小） 3 4	1 2 教職保育実践演習（幼・小・保） 3 教職保育実践演習（幼・小・保） 4	1 入門ゼミナールB 2 3 4		1 卒業研究 2 2 発展ゼミナール 2 3 4	
木戸	研究日（会議、オフィスアワー対応を含む）	1 後半）環境 2 後半）環境 3 後半）環境 4		1 教育実習指導（幼稚園） 2 教育実習指導（幼稚園） 3 教育実習指導（幼稚園） 4	1 卒業研究 2 2 発展ゼミナール 2 3 4	1 後半）幼児理解 2 後半）幼児理解 3 野外体験保育 4
天野	1 2 3 4	1 前半）人間関係 2 前半）人間関係 3 前半）人間関係 4		1 教育実習指導（幼稚園） 2 教育実習指導（幼稚園） 3 教育実習指導（幼稚園） 4	1 卒業研究 2 2 発展ゼミナール 2 3 4	
尾星		1 社会的養護 2 社会的養護 3 社会的養護 4	1 2 3 卒業研究 2 4 発展ゼミナール 2	1 2 3 4	1 子ども家庭福祉 2 子ども家庭福祉 3 子ども家庭福祉 4	
及川	1 保育実習指導 1（保育園） 2 保育実習指導 1（保育園） 3 保育実習指導 1（保育園） 4	1 乳児保育 2 乳児保育 3 乳児保育 4			1 卒業研究 2 2 発展ゼミナール 2 3 4	1 前半）教育方法論（幼） 2 前半）教育方法論（幼） 3 4
石井	1 保育実習指導 1（保育園） 2 保育実習指導 1（保育園） 3 保育実習指導 1（保育園） 4	1 乳児保育 2 乳児保育 3 乳児保育 4	1 2 子育て支援実習B 3 4	1 2 3 4		
三沢	1 初等音楽科教育法 2 初等音楽科教育法 3 初等音楽科教育法 4		1 2 3 4	1 2 3 4	1 卒業研究 2 2 発展ゼミナール 2 3 4	
綿引		1 2 3 4	1 2 アダプテッド・スポーツ 3 卒業研究 2 4 発展ゼミナール 2	1 前半）初等体育 2 前半）初等体育 3 前半）初等体育 4	1 健康の指導法 2 健康の指導法 3 健康の指導法 4	

「教員スケジュール」における赤字は、必修で専任教員1名により担当する科目である。いずれの科目も先に述べた教育効果に支障がないようなクラス編成となっている。また、すべての専任教員について、授業担当は1日3コマ以内であり、授業担当日以外に、研究日（会議、オフィスアワー対応を含む）が1週あたり2日間（日曜日を除く）確保されており、負担に配慮した体制となっている。

以上の対応に基づき、「設置の趣旨等を記載した書類」を修正・追記するとともに、「教員スケジュール」を資料として追加する。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（35、57 ページ）

新	旧
5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 <略> 4) 成績評価・履修指導等 ①クラスサイズの考え方 <u>児童教育学科の専門科目のクラス編成の方法は次のとおりである。</u> <u>講義形態が「演習」の科目はすべて3クラス編成、「講義」科目も教育効果を考慮して、2ないし3クラス編成を基本としている。2クラス編成の場合は、1クラス最大75名、3クラス編成の場合は、1クラス最大50名の履修者を想定して編成している。</u> なお、アクティブ・ラーニング（グループワーク）を中心とする授業回においては、他教員が支援に回るなど、弾力的な運営を基本としている。 <略> 9 教員組織の編成の考え方及び特色 3. 教員の担当科目と負担率 <略> 3) 教員のスケジュール <u>教員の負担状況を説明するため、完成年度における、専任教員ごとの授業科目の担当状況等のスケジュールを記載した「教員スケジュール」を示す。【資料7】参照</u> <u>すべての専任教員について、授業担当は1日3コマ以内であり、授業担当日以外に、研究日（会議、オフィスアワー対応を含む）が1週あたり2日間（日曜日を除く）確保されており、</u>	5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 <略> 4) 成績評価・履修指導等 ①クラスサイズの考え方 専門科目のうち、「専門基礎科目」の科目に関しては、75名程度のクラスを想定している。ただし、アクティブ・ラーニング（グループワーク）を中心とする授業回においては、他教員が支援に回るなど、弾力的な運営を基本としている。「専門応用・実践科目」「専門発展科目」については、座学となるものは50名程度、またはそれ以下とし、状況に応じて他教員の支援を想定している。 <略> 9 教員組織の編成の考え方及び特色 3. 教員の担当科目と負担率 <略>

(3)(4)(6)への対応

付された意見に対応すべく、卒業要件単位数を大幅に超えた履修モデルについて、学生の負担の観点から妥当性・適切性のあるモデルとなるよう見直すとともに、組織としての教育の方向性を明確にし、学生のキャリア形成を意識したモデルとなるよう、次のとおり整理した。

児童教育学部児童教育学科は、教育研究上の目的や養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーにより、「就学前教育・保育と小学校教育を連続したもの、一体のものとして学ぶ観点を養成していくカリキュラム」が構築されている。それを踏まえて設定する履修モデルは、現在求められている「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った教員（幼稚園教諭・小学校教諭）・保育者（保育士）の養成を基底とし、学生の卒業後の進路を見通した次の3つのモデルとする。

履修モデル①「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った幼稚園教諭

履修モデル②「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った小学校教諭

履修モデル③「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った保育士

そして、上記3つのそれぞれの履修モデルにおいて、資格取得を希望しない場合を想定し、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士それぞれの専門性や連続性・関連性に基づいた知識をもって、企業や自治体などでの活躍を希望する学生への指導もできるように変更している。

すなわち、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士の3つの分野を切り口に、学生が興味を持つ分野から学修を進め、学生の希望に応じて、資格を取得しないパターンから、全ての資格を取得するパターンまで、履修指導ができるように、「履修モデル」と、新たに提示する「時間割」を組み合わせながら履修指導を行っていく計画である。

なお、履修モデル①においては、幼稚園教諭に加え、さらに小学校教諭免許、保育士資格の3つの資格全て取得するパターンを示しており、修得すべき単位数は170単位となる。このパターンが学生にとって最も学生の負担が大きくなるため、「時間割」（『履修モデル①「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った幼稚園教諭【+小学校教諭免許+保育士資格】（合計単位数170単位）』）にて学生の負担について分析している。

結果として、2年次後期月曜日・3年次前期月曜日・3年次後期月曜日・4年次前期木曜日で1日3コマとなるものの前日の授業を0として予習・復習時間を確保し、他の学期・曜日時限においては、最大で2コマとして、予習・復習の時間を確保しながら、4年間の学修を進められる体制を整えている。各履修モデルの詳細は以下のとおりである。

履修モデル①「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った幼稚園教諭

子どもとそれを取り巻く社会状況及び教育・保育の役割の理解、子どもの発達と学びの

連続性に対する基盤的理解と実践力を備え、それに基づいた就学前の子どもの教育を展開できる幼稚園教諭を目指す。また、幼稚園教諭免許に加え、小学校教諭免許、保育士資格の取得を目指す場合の履修、資格取得を希望しない場合の履修についても示す。

【予想される将来像】幼稚園教諭 〈さらに資格取得を希望する場合〉小学校教諭、保育士、保育教諭 〈資格取得を希望しない場合〉子どもに関わる一般企業（例えば民間幼児教室、スイミングスクール）など

なお、資格取得を希望しない場合、多様な子どもを連続的に捉える力や、社会的課題への理解を深めるため、学生の興味にあわせて「特化プログラム」に参加を促すなどの履修指導を行っていく。

履修モデル①「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った幼稚園教諭

	科目区分	1 セメスター	2 セメスター	3 セメスター	4 セメスター	5 セメスター	6 セメスター	7 セメスター	8 セメスター	
教養科目・他	教養科目 【学修成果①】	入門ゼミナールA シティズンシップ（現代社会と市民） シティズンシップ（社会参画の意義） 健康・フィットネス理論実習 英語リーディング&ライティング	入門ゼミナールB 地域理解 国際理解 生涯スポーツ理論実習 英語リスニング&スピーキング	現代文明論	現代教育課題					
	1 教職・保育基礎科目群 【学修成果①②】	日本国憲法 情報機器操作 教育原理（幼・小） 教職論（幼・小） 保育原理 保育者論	教育心理学（幼・小） 教育課程論（幼・小） 幼児理解 子ども家庭福祉 ★情報機器活用と理論と方法	教育制度論（幼・小） 特別支援教育（幼・小） 教育方法論（小） 保育の心理学	教育方法論（幼） 社会的養護		教育相談（幼・小）			
	2 教科・保育内容に関する科目群 【学修成果②③】	保育内容総論	初等算数 人間関係 環境 乳児保育 障がい児保育	初等音楽 初等図画工作 健康 音楽 表現（造形） 表現（音楽）	初等国語 初等社会 初等理科 初等生活 初等家庭 初等体育 初等英語					
	3 教科・保育内容の指導法に関する科目群 【学修成果③④】			人間関係の指導法 環境の指導法	初等音楽科教育法 初等図画工作科教育法 健康の指導法 音楽の指導法	初等算数科教育法 特別活動の活動法（小） 表現（造形）の指導法 表現（音楽）の指導法	初等国語科教育法 初等英語科教育法 道徳の指導法（小） 総合的な学習の時間の指導法（小）	主従指導法（小） 道徳指導法（小）		
	4 教科・保育研究に関する科目群 【学修成果④⑤】						保育内容研究A			
	5 教育・保育フィールド科目群 【学修成果④⑤】			◆学校体験活動			教育実習指導（幼稚園） ◆教育実習（幼稚園）		教職・保育実証演習（幼・小・中）	
	6 特化プログラム群 【学修成果⑤～⑦】						接続期カリキュラム研究A ◆教育・保育のつながりA		◆教育・保育のつながりB	
	7 卒業研究科目群 【学修成果①～⑦】					発展ゼミナール1	発展ゼミナール2	卒業研究1	卒業研究2	
	授業期間内単位数	20	21	20	20	9	16	6	4	116
	★集中・◆学外実習単位	0	1	2	0	0	3	1	1	8
	合計単位数 （うち必修科目の単位）	20 (16)	22 (20)	22 (16)	20 (10)	9 (2)	19 (4)	7 (2)	5 (2)	124 (72)

- この履修モデルによって学びを進め、さらに小学校教諭免許、保育士資格の取得を目指す場合は、次の科目を修得する。
【＋小学校教諭免許】「初等生活科教育法」「初等社会科教育法」「初等理科教育法」「初等家庭科教育法」「初等体育科教育法」「教育実習指導（小学校）」「教育実習（小学校）」合計15単位 ※履修方法は別紙「時間割」を参照
【＋保育士資格】「社会福祉」「幼児教育原理」「乳児保育演習」「子育て支援」「保育の計画と評価」「保育実習指導1（保育園）」「保育実習1（保育園）」「子ども家庭支援」「子ども家庭支援の心理学」「子どもの理解と援助」「子どもの食と栄養」「子どもの健康と安全」「社会的養護演習」「保育実習指導1（施設）」「保育実習1（施設）」「子どもの保健」「保育実習指導2」「保育実習2」合計31単位 ※履修方法は別紙「時間割」を参照
- 合計単位数は、①幼稚園教諭免許・小学校教諭免許の取得は139単位、②幼稚園教諭免許・保育士資格の取得は155単位、③幼稚園教諭免許・小学校教諭免許・保育士資格の取得は170単位となる。
- この履修モデルによって学びを進めるなかで、資格取得を希望しない場合は、**黄色の科目（合計9単位）**は履修をしないように指導し、学生の興味関心に応じて、「5教育・保育フィールド科目群」の「地域連携ボランティア」や「6特化プログラム群」等の中から9単位を修得するように指導する。
- 資格取得を希望しない学生の合計単位数は124単位となる。

履修モデル①「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った幼稚園教諭(合計単位数124単位) 時間割(前期)							
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限目	4年				教育・保育インターンシップA	卒業研究1	[後半]進路指導論(小)
	3年				[前半]特別活動の指導法(小)		
	2年	教育制度論(幼・小)	環境の指導法	[前半]表現(音楽) [後半]初等音楽		[前半]初等図画工作 [後半]表現(造形)	特別支援教育(幼・小)
	1年		情報機器操作		保育者論	英語リーディング &ライティング	教職論(幼・小)
2限目	4年						
	3年	初等算数科教育法	表現(造形)の指導法			発展ゼミナール1	
	2年	教育方法論(小)		保育の心理学			
	1年	保育原理	[前半]シナリズム(現代社会と音楽) [後半]シナリズム(社会参画の意義)	[前半]保育内容総論	入門ゼミナールA		
3限目	4年				[前半]生徒指導論(小)		
	3年		表現(音楽)の指導法				
	2年		[前半]言葉 [後半]健康			人間関係の指導法	現代文明論
	1年	教育原理(幼・小)	健康・フィットネス理論実習				日本国憲法
4限目	4年				接続期カリキュラム研究A		
	3年						
	2年						
	1年						
履修コマ数 ※実習除く	4年	0	0	0	3	1	1
	3年	1	2	0	1	1	0
	2年	2	2	2	0	2	2
	1年	2	2	1	2	1	2
★集中・◆学外実習		◆「学校体験活動」(2年前期[3セメスター]、6月/9月)					
履修モデル②「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った幼稚園教諭(合計単位数124単位) 時間割(後期)							
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限目	4年				教育・保育インターンシップB		
	3年	初等英語科教育法		保育内容研究A	教育実習指導(幼稚園)		総合的な学習の時間の指導法(小)
	2年	言葉の指導法	社会的養護	[前半]初等国語 [後半]初等生活	[前半]初等体育		[前半]教育方法論(幼)
	1年				[前半]地域理解 [後半]国際理解	障がい児保育	教育心理学(幼・小)
2限目	4年						
	3年						道徳の指導法(小)
	2年	初等音楽科教育法	初等図画工作科教育法	[前半]初等英語 [後半]初等社会		[前半]初等理科 [後半]初等家庭	
	1年	教育課程論(幼・小)	[前半]人間関係 [後半]環境		英語リスニング &スピーキング		[前半]初等算数 [後半]幼児理解
3限目	4年		教職・保育実践演習(幼・小・保)	卒業研究2			
	3年				初等国語科教育法	教育相談(幼・小)	
	2年					健康の指導法	現代教養講義
	1年		乳児保育	入門ゼミナールB	生涯スポーツ理論実習	子ども家庭福祉	
4限目	4年						
	3年			発展ゼミナール2			
	2年						
	1年						
履修コマ数 ※実習除く	4年	0	1	1	1	0	0
	3年	1	0	2	2	1	2
	2年	2	2	2	1	2	2
	1年	1	2	1	2	2	2
★集中・◆学外実習		★「情報機器活用の理論と方法」(1年後期[2セメスター]、2月)、◆「教育実習(幼稚園)」(3年後期[6セメスター]、2月)					

履修モデル①「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った幼稚園教諭【＋小学校教諭免許】(合計単位数139単位) 時間割(前期)							
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限目	4年		教育実習指導(小学校)		教育・保育インターンシップA	卒業研究1	[後半]進路指導論(小)
	3年				[前半]特別活動の指導法(小)		
	2年	教育制度論(幼・小)	環境の指導法	[前半]表現(音楽) [後半]初等音楽		[前半]初等図画工作 [後半]表現(造形)	特別支援教育(幼・小)
	1年		情報機器操作		保育者論	英語リーディング＆ライティング	教職論(幼・小)
2限目	4年						
	3年	初等算数科教育法	表現(造形)の指導法			発展ゼミナール1	
	2年	教育方法論(小)		保育の心理学			
	1年	保育原理	[前半]シナイズンシップ(現代社会と市民) [後半]シナイズンシップ(社会参画の意義)	[前半]保育内容総論	入門ゼミナールA		
3限目	4年				[前半]生徒指導論(小)		
	3年		表現(音楽)の指導法	初等生活科教育法			
	2年		[前半]言葉 [後半]健康			人間関係の指導法	現代文明論
	1年	教育原理(幼・小)	健康・フィットネス理論実習				日本国憲法
4限目	4年				接続期カリキュラム研究A		
	3年						
	2年						
	1年						
履修コマ数 ※実習除く	4年	0	1	0	3	1	1
	3年	1	2	1	1	1	0
	2年	2	2	2	0	2	2
	1年	2	2	1	2	1	2
★集中・◆学外実習		◆「学校体験活動」(2年前期[3セメスター]、6月／9月)、◆「教育実習(小学校)」(4年前期[7セメスター]、6月)					
履修モデル①「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った幼稚園教諭【＋小学校教諭免許】(合計単位数139単位) 時間割(後期)							
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限目	4年				教育・保育インターンシップB		
	3年	初等英語科教育法		保育内容研究A	教育実習指導(幼稚園)		総合的な学習の時間の指導法(小)
	2年	言葉の指導法	社会的養護	[前半]初等国語 [後半]初等生活	[前半]初等体育		[前半]教育方法論(幼)
	1年				[前半]地域理解 [後半]国際理解	障がい児保育	教育心理学(幼・小)
2限目	4年						
	3年	初等家庭科教育法	初等体育科教育法				道徳の指導法(小)
	2年	初等音楽科教育法	初等図画工作科教育法	[前半]初等英語 [後半]初等社会		[前半]初等理科 [後半]初等家庭	
	1年	教育課程論(幼・小)	[前半]人間関係 [後半]環境		英語リスニング＆スピーキング		[前半]初等算数 [後半]幼児理解
3限目	4年		教職・保育実践演習(幼・小・保)	卒業研究2			
	3年	初等社会科教育法	初等理科教育法		初等国語科教育法	教育相談(幼・小)	
	2年					健康の指導法	現代教養講義
	1年		乳児保育	入門ゼミナールB	生涯スポーツ理論実習	子ども家庭福祉	
4限目	4年						
	3年			発展ゼミナール2			
	2年						
	1年						
履修コマ数 ※実習除く	4年	0	1	1	1	0	0
	3年	3	2	2	2	1	2
	2年	2	2	2	1	2	2
	1年	1	2	1	2	2	2
★集中・◆学外実習		★「情報機器活用の理論と方法」(1年後期[2セメスター]、2月)、◆「教育実習(幼稚園)」(3年後期[6セメスター]、2月)					

履修モデル①「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った幼稚園教諭【＋保育士資格】(合計単位数155単位) 時間割(前期)							
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限目	4年				教育・保育インターンシップA	卒業研究1	[後半]進路指導論(小)
	3年	保育実習指導1(施設)			[前半]特別活動の指導法(小) [後半]子どもの健康と安全		子ども家庭支援の心理学
	2年	教育制度論(幼・小)	環境の指導法	[前半]表現(音楽) [後半]初等音楽		[前半]初等図画工作 [後半]表現(造形)	特別支援教育(幼・小)
	1年		情報機器操作	社会福祉	保育者論	英語リーディング&ライティング	教職論(幼・小)
2限目	4年		保育実習指導2				
	3年	初等算数科教育法	表現(造形)の指導法			発展ゼミナール1	
	2年	教育方法論(小)		保育の心理学			
	1年	保育原理	[前半]シミュレーション(現代社会と音楽) [後半]シミュレーション(社会参加の音楽)	[前半]保育内容総論	入門ゼミナールA		
3限目	4年				[前半]生徒指導論(小)	子どもの保健	
	3年	[前半]子どもの理解と援助 [後半]社会的養護演習	表現(音楽)の指導法		子ども家庭支援論		子どもの食と栄養
	2年		[前半]言葉 [後半]健康		[前半]子育て支援 [後半]乳児保育演習	人間関係の指導法	現代文明論
	1年	教育原理(幼・小)	健康・フィitness理論実習				日本国憲法
4限目	4年				接続期カリキュラム研究A		
	3年						
	2年						
	1年						
履修コマ数 ※実習除く	4年	0	1	0	3	2	1
	3年	3	2	0	2	1	2
	2年	2	2	2	1	2	2
	1年	2	2	2	2	1	2
★集中・◆学外実習 ◆「学校体験活動」(2年前期[3セメスター]、6月/9月)、◆「保育実習1(施設)」(3年前期[5セメスター]、9月)、◆「保育実習2」(4年前期[7セメスター]、8月)							
履修モデル①「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った幼稚園教諭【＋保育士資格】(合計単位数155単位) 時間割(後期)							
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限目	4年				教育・保育インターンシップB		
	3年	初等英語科教育法		保育内容研究A	教育実習指導(幼稚園)		総合的な学習の時間の指導法(小)
	2年	言葉の指導法	社会的養護	[前半]初等国語 [後半]初等生活	[前半]初等体育		[前半]教育方法論(幼)
	1年	幼児教育原理			[前半]地域理解 [後半]国際理解	障がい児保育	教育心理学(幼・小)
2限目	4年						
	3年						道徳の指導法(小)
	2年	初等音楽科教育法	初等図画工作科教育法	[前半]初等英語 [後半]初等社会		[前半]初等理科 [後半]初等家庭	
	1年	教育課程論(幼・小)	[前半]人間関係 [後半]環境		英語リスニング&スピーキング		[前半]初等算数 [後半]幼児理解
3限目	4年		教職・保育実践演習(幼・小・保)	卒業研究2			
	3年				初等国語科教育法	教育相談(幼・小)	
	2年	保育実習指導1(保育園)			保育の計画と評価	健康の指導法	現代教養講義
	1年		乳児保育	入門ゼミナールB	生涯スポーツ理論実習	子ども家庭福祉	
4限目	4年						
	3年			発展ゼミナール2			
	2年						
	1年						
履修コマ数 ※実習除く	4年	0	1	1	1	0	0
	3年	1	0	2	2	1	2
	2年	3	2	2	2	2	2
	1年	2	2	1	2	2	2
★集中・◆学外実習 ★「情報機器活用」の理論と方法」(1年後期[2セメスター]、2月)、◆「保育実習1(保育園)」(2年後期[4セメスター]、2月)、◆「教育実習(幼稚園)」(3年後期[6セメスター]、2月)							

履修モデル①「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った幼稚園教諭【＋小学校教諭免許＋保育士資格】(合計単位数170単位)							時間割(前期)
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限目	4年		教育実習指導(小学校)		教育・保育インターンシップA	卒業研究1	[後半]進路指導論(小)
	3年	保育実習指導1(施設)			[前半]特別活動の指導法(小) [後半]子どもの健康と安全		子ども家庭支援の心理学
	2年	教育制度論(幼・小)	環境の指導法	[前半]表現(音楽) [後半]初等音楽		[前半]初等図画工作 [後半]表現(造形)	特別支援教育(幼・小)
	1年		情報機器操作	社会福祉	保育者論	英語リーディング＆ライティング	教職論(幼・小)
2限目	4年		保育実習指導2				
	3年	初等算数科教育法	表現(造形)の指導法			発展ゼミナール1	
	2年	教育方法論(小)		保育の心理学			
	1年	保育原理	[前半]シナティエンシップ(現代社会と市民) [後半]シナティエンシップ(社会参画の意義)	[前半]保育内容総論	入門ゼミナールA		
3限目	4年				[前半]生徒指導論(小)	子どもの保健	
	3年	[前半]子どもの理解と援助 [後半]社会的養護演習	表現(音楽)の指導法	初等生活科教育法	子ども家庭支援論		子どもの食と栄養
	2年		[前半]音楽 [後半]健康		[前半]子育て支援 [後半]乳児保育演習	人間関係の指導法	現代文明論
	1年	教育原理(幼・小)	健康・フィットネス理論実習				日本国憲法
4限目	4年				接続期カリキュラム研究A		
	3年						
	2年						
	1年						
履修コマ数 ※実習除く	4年	0	2	0	3	2	1
	3年	3	2	1	2	1	2
	2年	2	2	2	1	2	2
	1年	2	2	2	2	1	2
★集中・◆学外実習		◆「学校体験活動」(2年前期[3セメスター]、6月/9月)、◆「保育実習1(施設)」(3年前期[5セメスター]、9月)、◆「教育実習(小学校)」(4年前期[7セメスター]、6月)、◆「保育実習2」(4年前期[7セメスター]、8月)					
履修モデル①「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った幼稚園教諭【＋小学校教諭免許＋保育士資格】(合計単位数170単位)							時間割(後期)
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限目	4年				教育・保育インターンシップB		
	3年	初等英語科教育法		保育内容研究A	教育実習指導(幼稚園)		総合的な学習の時間の指導法(小)
	2年	言葉の指導法	社会的養護	[前半]初等国語 [後半]初等生活	[前半]初等体育		[前半]教育方法論(幼)
	1年	幼児教育原理			[前半]地域理解 [後半]国際理解	障がい児保育	教育心理学(幼・小)
2限目	4年						
	3年	初等家庭科教育法	初等体育科教育法				道徳の指導法(小)
	2年	初等音楽科教育法	初等図画工作科教育法	[前半]初等英語 [後半]初等社会		[前半]初等理科 [後半]初等家庭	
	1年	教育課程論(幼・小)	[前半]人間関係 [後半]環境		英語リスニング＆スピーキング		[前半]初等算数 [後半]幼児理解
3限目	4年		教職・保育実践演習(幼・小・保)	卒業研究2			
	3年	初等社会科教育法	初等理科教育法		初等国語科教育法	教育相談(幼・小)	
	2年	保育実習指導1(保育園)			保育の計画と評価	健康の指導法	現代教養講義
	1年		乳児保育	入門ゼミナールB	生涯スポーツ理論実習	子ども家庭福祉	
4限目	4年						
	3年			発展ゼミナール2			
	2年						
	1年						
履修コマ数 ※実習除く	4年	0	1	1	1	0	0
	3年	3	2	2	2	1	2
	2年	3	2	2	2	2	2
	1年	2	2	1	2	2	2
★集中・◆学外実習		★「情報機器活用の理論と方法」(1年後期[2セメスター]、2月)、◆「保育実習1(保育園)」(2年後期[4セメスター]、2月)、◆「教育実習(幼稚園)」(3年後期[6セメスター]、2月)					

履修モデル②「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った小学校教諭

子どもとそれを取り巻く社会状況及び教育・保育の役割の理解、子どもの発達と学びの連続性に対する基盤的理解と実践力を備え、それに基づいた教育を展開できる小学校教諭を目指す。

【予想される将来像】小学校教諭 〈資格取得を希望しない場合〉学童保育指導員、子どもに関わる一般企業（例えば学習塾、スイミングスクール）など

なお、資格取得を希望しない場合、多様な子どもを継続的に捉える力や、社会的課題への理解を深めるため、学生の興味にあわせて「特化プログラム」に参加を促すなどの履修指導を行っていく。

履修モデル②「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った小学校教諭

	科目区分	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター	
教養科目・他	教養科目 【学修成果①】	入門ゼミナールA シティズンシップ（現代社会と市民） シティズンシップ（社会参画の意義） 健康・フィットネス理論実習 英語リーディング&ライティング	入門ゼミナールB 地域理解 国際理解 生涯スポーツ理論実習 英語リスニング&スピーキング	現代文明論	現代教育論					
	1教職・保育基礎科目群 【学修成果①②】	日本国憲法 情報機器操作 教育原理（幼・小） 教職論（幼・小） 保育原理 保育学論	教育心理学（幼・小） 教育課程論（幼・小） 子ども家庭福祉 ★情報機器活用の理論と方法	教育制度論（幼・小） 特別支援教育（幼・小） 教育方法論（小） 保育の心理学	教育方法論（幼） 社会的養護		教育相談（幼・小）			
専門基礎科目	2教科・保育内容に関する科目群 【学修成果②③】	保育内容総論	初等算数 人間関係 環境 乳児保育 障がい児保育	初等音楽 初等図画工作 健康 音楽 表現（造形） 表現（音楽） 初等英語	初等国語 初等社会 初等理科 初等生活 初等家庭 初等体育 初等英語					
	3教科・保育内容の指導法に関する科目群 【学修成果③④】			人間関係の指導法 初等音楽科教育法 初等図画工作科教育法	初等算数科教育法 初等生活科教育法 特別活動の指導法（小） 表現（造形）の指導法 表現（音楽）の指導法	初等算数科教育法 初等生活科教育法 初等理科教育法 初等家庭科教育法 初等体育科教育法 初等英語科教育法 道徳の指導法（小） 総合的な学習の時間の指導法（小）	初等国語科教育法 初等社会科教育法 初等理科教育法 初等家庭科教育法 初等体育科教育法 初等英語科教育法 道徳の指導法（小） 総合的な学習の時間の指導法（小）	生徒指導論（小） 進路指導論（小）		
専門応用科目	4教科・保育研究に関する科目群 【学修成果④⑤】							初等音楽研究 初等図画工作研究		
	5教育・保育フィールド科目群 【学修成果④⑤】			◆学校体験活動				教育実習指導（小学校） ◆教育実習（小学校）	教職・保育実践演習（幼・小・小）	
専門発展・実践科目	6特化プログラム群 【学修成果⑤～⑦】							接続期カリキュラム研究A ◆教育・保育のキャリア研究A	◆教育・保育のキャリア研究B	
	7卒業研究科目群 【学修成果①～⑦】					発展ゼミナール1	発展ゼミナール2	卒業研究1	卒業研究2	
授業期間内単位数		20	20	18	16	11	20	10	4	119
★集中・◆学外実習単位		0	1	2	0	0	0	4	1	8
合計単位数 （うち必修科目の単位）		20 (16)	21 (20)	20 (16)	16 (10)	11 (2)	20 (4)	14 (2)	5 (2)	127 (72)

- 1) この履修モデルによって学びを進めるなかで、資格取得を希望しない場合は、黄色の科目（合計11単位）は履修をしないように指導し、学生の興味関心に応じて、「5教育・保育フィールド科目群」の「地域連携ボランティア」や「6特化プログラム群」等の中から8単位以上を修得するように指導する。
- 2) 資格取得を希望しない学生の合計単位数は124単位となる。

履修モデル②「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った小学校教諭(合計単位数127単位) 時間割(前期)							
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限目	4年	[後半]初等音楽研究	教育実習指導(小学校)		教育・保育インターンシップA	卒業研究1	[後半]進路指導論(小)
	3年				[前半]特別活動の指導法(小)		
	2年	教育制度論(幼・小)		[前半]表現(音楽) [後半]初等音楽		[前半]初等図画工作 [後半]表現(造形)	特別支援教育(幼・小)
	1年		情報機器操作		保育者論	英語リーディング&ライティング	教職論(幼・小)
2限目	4年						
	3年	初等算数科教育法	表現(造形)の指導法			発展ゼミナール1	
	2年	教育方法論(小)		保育の心理学			
	1年	保育原理	[前半]シタイズンシップ(現代社会と市民) [後半]シタイズンシップ(社会参画の意義)	[前半]保育内容総論	入門ゼミナールA		
3限目	4年				[前半]生徒指導論(小)		
	3年		表現(音楽)の指導法	初等生活科教育法			
	2年		[前半]音楽 [後半]健康			人間関係の指導法	現代文明論
	1年	教育原理(幼・小)	健康・フィットネス理論実習				日本国憲法
4限目	4年				接続期カリキュラム研究A		
	3年						
	2年						
	1年						
履修コマ数 ※実習除く	4年	1	1	0	3	1	1
	3年	1	2	1	1	1	0
	2年	2	1	2	0	2	2
	1年	2	2	1	2	1	2
★集中・◆学外実習 ◆「学校体験活動」(2年前期[3セメスター]、6月/9月)、◆「教育実習(小学校)」(4年前期[7セメスター]、6月)							
履修モデル②「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った小学校教諭(合計単位数127単位) 時間割(後期)							
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限目	4年				教育・保育インターンシップB		
	3年	初等英語科教育法					総合的な学習の時間の指導法(小)
	2年		社会的養護	[前半]初等国語 [後半]初等生活	[前半]初等体育		[前半]教育方法論(幼)
	1年				[前半]地域理解 [後半]国際理解	障がい児保育	教育心理学(幼・小)
2限目	4年						
	3年	初等家庭科教育法	初等体育科教育法				道徳の指導法(小)
	2年	初等音楽科教育法	初等図画工作科教育法	[前半]初等英語 [後半]初等社会		[前半]初等理科 [後半]初等家庭	
	1年	教育課程論(幼・小)	[前半]人間関係 [後半]環境		英語リスニング&スピーキング		[前半]初等算数
3限目	4年		教職・保育実践演習(幼・小・保)	卒業研究2	[後半]初等図画工作研究		
	3年	初等社会科教育法	初等理科教育法		初等国語科教育法	教育相談(幼・小)	
	2年						現代教養講義
	1年		乳児保育	入門ゼミナールB	生涯スポーツ理論実習	子ども家庭福祉	
4限目	4年						
	3年			発展ゼミナール2			
	2年						
	1年						
履修コマ数 ※実習除く	4年	0	1	1	2	0	0
	3年	3	2	1	1	1	2
	2年	1	2	2	1	1	2
	1年	1	2	1	2	2	2
★集中・◆学外実習 ★「情報機器活用の理論と方法」(1年後期[2セメスター]、2月)							

履修モデル③「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った保育士

子どもとそれを取り巻く社会状況及び教育・保育の役割の理解、子どもの発達と学びの連続性に対する基盤的理解と実践力を備え、それに基づいた就学前の子どもの保育を展開できる保育士を目指す。また、資格取得を希望しない場合の履修についても示す。

【予想される将来像】保育士 〈資格取得を希望しない場合〉児童福祉施設職員、子どもに関わる一般企業（例えば民間幼児教室、託児所）など

なお、資格取得を希望しない場合、多様な子どもを継続的に捉える力や、社会的課題への理解を深めるため、学生の興味にあわせて「特化プログラム」に参加を促すなどの履修指導を行っていく。

履修モデル③「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った保育士

	科目区分	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター	
教養科目・他	教養科目 【学修成果①】	入門ゼミナールA シティズンシップ（現代社会と市民） シティズンシップ（社会参画の意義） 健康・フィットネス理論実習 英語リーディング&ライティング	入門ゼミナールB 地域理解 国際理解 生涯スポーツ理論実習 英語リスニング&スピーキング	現代文明論	現代教養講義					
専門基礎科目	1 教職・保育基礎科目群 【学修成果①②】	教育原理（幼・小） 教職論（幼・小） 保育原理 社会福祉 保育者論	教育心理学（幼・小） 教育課程論（幼・小） 子ども家庭福祉 幼児教育原理 ★情報機器活用理論と方法	教育制度論（幼・小） 特別支援教育（幼・小） 教育方法論（小） 保育の心理学	教育方法論（幼） 社会的養護		教育相談（幼・小）			
	2 教科・保育内容に関する科目群 【学修成果②③】	保育内容総論	初等算数 人間関係 環境 乳児保育 障がい児保育	初等音楽 初等図画工作 健康 言葉 表現（造形） 表現（音楽）	初等国語 初等社会 初等理科 初等生活 初等家庭 初等体育 初等英語	子ども家庭支援論 子ども家庭支援の心理学 子どもの権利と保護 子どもの食と栄養 子どもの健康と安全		子どもの保護		
専門応用科目	3 教科・保育内容の指導法に関する科目群 【学修成果③④】			人間関係の指導法 環境の指導法 乳児保育実習 子育て支援	初等音楽科教育法 初等図画工作科教育法 健康の指導法 言葉の指導法 保育の計画と評価	初等生活科教育法 表現（造形）の指導法 表現（音楽）の指導法 社会的養護実習	初等国語科教育法 初等家庭科教育法 初等体育科教育法 初等英語科教育法 総合的な学習の時間の指導法（小）			
	4 教科・保育研究に関する科目群 【学修成果④⑤】						保育内容研究A			
専門発展・実践科目	5 教育・保育フィールド科目群 【学修成果④⑤】				保育実習指導1（保育園） ◆保育実習1（保育園）	保育実習指導1（施設） ◆保育実習1（施設）		保育実習指導2 ◆保育実習2	教職・保育実習演習（幼・小・保）	
	6 特化プログラム群 【学修成果⑤～⑦】							接続系カリキュラム研究A		
	7 卒業研究科目群 【学修成果①～⑦】					発展ゼミナール1	発展ゼミナール2	卒業研究1	卒業研究2	
授業期間内単位数		18	22	22	24	19	16	8	4	133
★集中・◆学外実習単位		0	1	0	2	2	0	2	0	7
合計単位数 （うち必修科目の単位）		18 (16)	23 (20)	22 (16)	26 (10)	21 (2)	16 (4)	10 (2)	4 (2)	140 (72)

1) この履修モデルによって学びを進めるなかで、資格取得を希望しない場合は、「黄色の科目（合計14単位）」は履修をしないように指導し、学生の興味関心に応じて、「緑色の科目（合計8単位）」または「5教育・保育フィールド科目群」の「地域連携ボランティア」や「6特化プログラム群」等の中から、6単位以上を修得するように指導する。

2) 資格取得を希望しない学生の合計単位数は124単位となる。

履修モデル③「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った保育士（合計単位数140単位） 時間割（前期）							
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1眼目	4年					卒業研究1	
	3年	保育実習指導1（施設）			〔後半〕子どもの健康と安全		子ども家庭支援の心理学
	2年	教育制度論（幼・小）	環境の指導法	〔前半〕表現（音楽） 〔後半〕初等音楽		〔前半〕初等図画工作 〔後半〕表現（造形）	特別支援教育（幼・小）
	1年			社会福祉	保育者論	英語リーディング＆ライティング	教職論（幼・小）
2眼目	4年		保育実習指導2				
	3年		表現（造形）の指導法			発展ゼミナール1	
	2年	教育方法論（小）		保育の心理学			
	1年	保育原理	〔前半〕シナリズム（現代社会と市民） 〔後半〕シナリズム（社会参画の意義）	〔前半〕保育内容総論	入門ゼミナールA		
3眼目	4年					子どもの保健	
	3年	〔前半〕子どもの理解と援助 〔後半〕社会的養護演習	表現（音楽）の指導法	初等生活科教育法	子ども家庭支援論		子どもの食と栄養
	2年		〔前半〕言葉 〔後半〕健康		〔前半〕子育て支援 〔後半〕乳児保育演習	人間関係の指導法	現代文明論
	1年	教育原理（幼・小）	健康・フィitness理論実習				
4眼目	4年				接続期カリキュラム研究A		
	3年						
	2年						
	1年						
履修コマ数 ※実習除く	4年	0	1	0	1	2	0
	3年	2	2	1	2	1	2
	2年	2	2	2	1	2	2
	1年	2	1	2	2	1	1
★集中・◆学外実習 ◆「保育実習1（施設）」（3年前期〔5セメスター〕、9月）、◆「保育実習2」（4年前期〔7セメスター〕、8月）							
履修モデル③「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った保育士（合計単位数140単位） 時間割（後期）							
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1眼目	4年						
	3年	初等英語科教育法		保育内容研究A			総合的な学習の時間の指導法（小）
	2年	言葉の指導法	社会的養護	〔前半〕初等国語 〔後半〕初等生活	〔前半〕初等体育		〔前半〕教育方法論（幼）
	1年	幼児教育原理			〔前半〕地域理解 〔後半〕国際理解	障がい児保育	教育心理学（幼・小）
2眼目	4年						
	3年	初等家庭科教育法	初等体育科教育法				
	2年	初等音楽科教育法	初等図画工作科教育法	〔前半〕初等英語 〔後半〕初等社会		〔前半〕初等理科 〔後半〕初等家庭	
	1年	教育課程論（幼・小）	〔前半〕人間関係 〔後半〕環境		英語リスニング＆スピーキング		〔前半〕初等算数
3眼目	4年		教職・保育実践演習（幼・小・保）	卒業研究2			
	3年				初等国語科教育法	教育相談（幼・小）	
	2年	保育実習指導1（保育園）			保育の計画と評価	健康の指導法	現代教養講義
	1年		乳児保育	入門ゼミナールB	生涯スポーツ理論実習	子ども家庭福祉	
4眼目	4年						
	3年			発展ゼミナール2			
	2年						
	1年						
履修コマ数 ※実習除く	4年	0	1	1	0	0	0
	3年	2	1	2	1	1	1
	2年	3	2	2	2	2	2
	1年	2	2	1	2	2	2
★集中・◆学外実習 ★「情報機器活用の理論と方法」（1年後期〔2セメスター〕、2月）、◆「保育実習1（保育園）」（2年後期〔4セメスター〕、2月）							

なお、この履修モデルの整理により、(6)において意見が付された「履修モデル⑦社会実践力」は削除している。

以上の対応に基づき、「設置の趣旨等を記載した書類」を修正・追記するとともに、資料「履修モデル」を差し替える。

(5) への対応

修正した履修モデルに基づき、学生への履修指導を次のとおり行う。

初年次より、各学生に、専任教員1名が指導教員として配置され、各学期の開始時及び2年次終了時に実施する指導教員との面談カウンセリングにおいて、履修モデル及び時間割に基づいて履修指導を行う。4年間の履修指導の流れは次のとおりである。

- ①入学時においては、「入門ゼミナールA」の学びをとおして、児童教育学部児童教育学科の学位プログラムで身につく力と、そのための教育課程について理解を深め、その後の履修指導と連動させる。
- ②1～2年次においては、各学期の面談カウンセリングで、学修成果評価結果（達成度）に基づいて助言・履修指導を行うとともに、卒業後の進路を想定させながら、資格取得に関する希望を確認し、それに対応した履修モデル及び時間割を用いて履修指導を行う。
- ③2年次終了時に「学びの統合レポート」を作成し、その内容とそれまでの学修成果評価結果（達成度）を踏まえた面談カウンセリングを行う。この時点において卒業後の進路を明確化させ、取得する資格を確定し、3年次以降に履修する科目について助言・履修指導を行う。
- ④3年次以降も、学修成果評価結果（達成度）を踏まえた面談カウンセリングを行うが、卒業に向け、履修する科目について助言・履修指導を行うとともに、特化プログラムの選択支援など、資格取得を含む将来のキャリア形成を支援し、当該学生が希望する卒業後の進路につなげていく。

以上の対応に基づき、「設置の趣旨等を記載した書類」を修正・追記する。

(新旧対照表) 設置の趣旨等を記載した書類 (38～40 ページ)

新	旧
5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 <略> 4) 成績評価・履修指導等 <略> ③履修モデル・履修指導 児童教育学部児童教育学科は、教育研究上の	5 教育方法、履修指導方法及び卒業要件 <略> 4) 成績評価・履修指導等 <略> ③履修モデル 履修モデルは、7つのモデルを設定するが、

目的や養成する人材像、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーにより、「就学前教育・保育と小学校教育を連続したもの、一体のものとして学ぶ観点で養成していくカリキュラム」が構築されている。それを踏まえて設定する履修モデルは、現在求められている「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った教員（幼稚園教諭・小学校教諭）・保育者（保育士）の養成を基底とし、学生の卒業後の進路を見通した次の3つのモデルとする。

履修モデル①「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った幼稚園教諭

履修モデル②「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った小学校教諭

履修モデル③「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った保育士

そして、上記3つのそれぞれの履修モデルにおいて、資格取得を希望しない場合を想定し、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士それぞれの専門性や連続性・関連性に基づいた知識をもって、企業や自治体などでの活躍を希望する学生への指導もできるようにしている。

すなわち、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士の3つの分野を切り口に、学生が興味を持つ分野から学修を進め、学生の希望に応じて、資格を取得しないパターンから、全ての資格を取得するパターンまで、履修指導ができるように、「履修モデル」と、新たに提示する「時間割」を組み合わせながら履修指導を行っていく計画である。【資料4】参照

なお、履修モデル①においては、幼稚園教諭に加え、さらに小学校教諭免許、保育士資格の3つの資格全て取得するパターンを示しており、修得すべき単位数は170単位となる。このパターンが学生にとって最も学生の負担が大きくなるが、「時間割」（『履修モデル①「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った幼稚園

基本的な4年間の学びの流れは次のとおりである。

1年次には、学部教員全員による、「入門ゼミナールA」「入門ゼミナールB」（必修）の履修を必修として、初年次の学修状況を確認しながら、学びをスタートする。

2年次の終わりに、学生は「学びの統合レポート」を作成する。1、2年次で身に付けた学修内容による振り返りと、今後の学修計画・進路について、教員とともに学びの方向性を定めていく。

3年次は、「免許・資格」の選択、「特化プログラム」の選択など、学生が身に付けたい力に基づき方向性を定めていくことに加え、4年次にかけて「7卒業研究科目群」（必修）の履修を進めていく。卒業研究科目は、開講される各研究テーマ、研究分野から選択していくが、まず初めに開講する「発展ゼミナールA」においては、研究全般に対する汎用的知識・技能を学ぶことからスタートしていく。そして、6セメスターに開講される「発展ゼミナールB」の履修の際に、改めて希望するテーマ、研究分野からゼミを選択し、「発展ゼミナールB」、「卒業研究A」、「卒業研究B」を通じて継続的な指導の下、研究を深める。

【7つの履修モデル】 【資料4】参照
①小学校教諭免許・幼稚園教諭免許＋特化プログラム（国際理解教育）

教育を国際的な観点から捉えることができ、多様な子ども、特に外国籍の子どもに対する発達と文化への深い理解を踏まえた学習指導を行うとともに、幼小の教育の見通しを持った指導・支援を展開することができる資質能力を持つ。

【予想される将来像】小学校教諭、幼稚園教諭、インターナショナルスクール教員

②幼稚園教諭免許・保育士資格＋特化プログラム（地域子育て支援）

就学前の子どもの教育・保育について、その

<u>園教諭【+小学校教諭免許+保育士資格】（合計単位数 170 単位）』のとおりに、結果として、2 年次後期月曜日・3 年次前期月曜日・3 年次後期月曜日・4 年次前期木曜日で 1 日 3 コマとなるものの前日の授業を 0 として予習・復習時間を確保し、他の学期・曜日時限においては、最大で 2 コマとして、予習・復習の時間を確保しながら、4 年間の学修を進められる体制を整えている。</u> <u>各履修モデルの詳細は以下のとおりである。</u> <u>履修モデル①「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った幼稚園教諭</u> <u>子どもとそれを取り巻く社会状況及び教育・保育の役割の理解、子どもの発達と学びの連続性に対する基盤的理解と実践力を備え、それに基づいた就学前の子どもの教育を展開できる幼稚園教諭を目指す。また、幼稚園教諭免許に加え、小学校教諭免許、保育士資格の取得を目指す場合の履修、資格取得を希望しない場合の履修についても示す。</u> <u>【予想される将来像】幼稚園教諭〈さらに資格取得を希望する場合〉小学校教諭、保育士、保育教諭〈資格取得を希望しない場合〉子どもに関わる一般企業（例えば民間幼児教室、スイミングスクール）など</u> <u>なお、資格取得を希望しない場合、多様な子どもを継続的に捉える力や、社会的課題への理解を深めるため、学生の興味にあわせて「特化プログラム」に参加を促すなどの履修指導を行っている。</u> <u>履修モデル②「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った小学校教諭</u> <u>子どもとそれを取り巻く社会状況及び教育・保育の役割の理解、子どもの発達と学びの連続性に対する基盤的理解と実践力を備え、そ</u>	保護者に対する「親支援」も併せて行うことで、子どもが安心して育つ環境を考えた保育を実践することができる。また、地域を巻き込みながら、子育て家庭への支援を展開し、地域力を向上させる資質能力を持つ。 【予想される将来像】保育教諭、保育士、幼稚園教諭、児童相談所職員 ③小学校教諭免許・幼稚園教諭免許・保育士資格 子どもの発達の連続性に対する基盤的理解と実践力を身につけた教員・保育者として活躍が期待される。小学校の教員として、就学前教育・保育を踏まえて、子どもに対応できる力量を持ち、保育者としては、小学校教育を視野に収めた保育を展開できる資質能力を持つ。なお、小学校教諭免許・幼稚園教諭免許・保育士資格の同時取得については、2 年次終了段階時点、及びそれ以降において、G P A 2.8 未満の学生については、履修登録上限が 20 単位に設定されるため、4 年間での取得が困難になっており、その際は、本人の適性を踏まえ、適切な進路に向けて進路支援と併せて、免許・資格の取得を目指すことになる。 【予想される将来像】小学校教諭、幼稚園教諭、保育士、保育教諭、学童保育指導員 ④小学校教諭免許・幼稚園教諭免許・保育士資格+特化プログラム（保幼小連携） 子どもの発達の連続性への深い理解と実践力を身につけた教員・保育者として活躍が期待される。小学校の教員として、いわゆる「小 1 プロブレム」に対応できる力量を持ち、保育者としては、小学校教育まで見通しを持った保育を計画・展開できる資質能力を持つ。 【予想される将来像】小学校教諭、幼稚園教諭、保育士、保育教諭、学童保育指導員 ⑤小学校教諭免許+教養（社会実践力）
---	--

<u>れに基づいた教育を展開できる小学校教諭を目指す。</u> <u>【予想される将来像】小学校教諭 〈資格取得を希望しない場合〉学童保育指導員、子どもに関わる一般企業（例えば学習塾、スイミングスクール）など</u> <u>なお、資格取得を希望しない場合、多様な子どもを連続的に捉える力や、社会的課題への理解を深めるため、学生の興味にあわせて「特化プログラム」に参加を促すなどの履修指導を行っていく。</u> <u>履修モデル③「多様な子どもを、継続的に見通す力」を持った保育士</u> <u>子どもとそれを取り巻く社会状況及び教育・保育の役割の理解、子どもの発達と学びの連続性に対する基盤的理解と実践力を備え、それに基づいた就学前の子どもの保育を展開できる保育士を目指す。また、資格取得を希望しない場合の履修についても示す。</u> <u>【予想される将来像】保育士 〈資格取得を希望しない場合〉児童福祉施設職員、子どもに関わる一般企業（例えば民間幼児教室、託児所）など</u> <u>なお、資格取得を希望しない場合、多様な子どもを連続的に捉える力や、社会的課題への理解を深めるため、学生の興味にあわせて「特化プログラム」に参加を促すなどの履修指導を行っていく。</u> <u>以上説明した「履修モデル」及び「時間割」に基づき、学生への履修指導を次のとおり行う。</u> <u>初年次より、各学生に、専任教員1名が指導</u>	小学校教員として、社会と教育・保育の関わりに対して積極的な興味関心を持ち、その幅広い基礎教養を基盤として、教育・保育に関する諸課題に積極的に向き合い、地域の人々と協働して解決に向けて活動できる資質能力を持つ。 <u>【予想される将来像】小学校教諭、学習塾指導者、地域コーディネーター</u> ⑥保育士資格＋特化プログラム（障がい児支援） 多様な発達段階（障がい児等）の子どもに対して、その発達や成長過程を把握し、きめ細かな、かつ見通しを持った支援をすることができる。また、保護者に対しても、専門性に基づいた親支援と育児支援を行う保育を展開する資質能力を持つ。 <u>【予想される将来像】保育士、児童福祉施設職員</u> ⑦社会的実践力 社会における教育・保育の意義と、教員・保育者の役割を理解し、それをもとにこれからの子どもが幸せに生きることのできる社会の実現に向けて、地域の人々と協働し、自らできることを考えて、実践することができる。 <u>【予想される将来像】子ども関係の一般企業（子ども服等）、小児医院スタッフ、スイミングクラブインストラクター、学習塾指導者、地域コーディネーター、企業の研修担当者</u>
---	--

教員として配置され、各学期の開始時及び2年次終了時に実施する指導教員との面談カウンセリングにおいて、履修モデル及び時間割に基づいて履修指導を行う。4年間の履修指導の流れは次のとおりである。

①入学時においては、「入門ゼミナールA」の学びをとおして、児童教育学部児童教育学科の学位プログラムで身につく力と、そのための教育課程について理解を深め、その後の履修指導と連動させる。

②1～2年次においては、各学期の面談カウンセリングで、学修成果評価結果（達成度）に基づいて助言・履修指導を行うとともに、卒業後の進路を想定させながら、資格取得に関する希望を確認し、それに対応した履修モデル及び時間割を用いて履修指導を行う。

③2年次終了時に「学びの統合レポート」を作成し、その内容とそれまでの学修成果評価結果（達成度）を踏まえた面談カウンセリングを行う。この時点において卒業後の進路を明確化させ、取得する資格を確定し、3年次以降に履修する科目について助言・履修指導を行う。

④3年次以降も、学修成果評価結果（達成度）を踏まえた面談カウンセリングを行うが、卒業に向け、履修する科目について助言・履修指導を行うとともに、特化プログラムの選択支援など、資格取得を含む将来のキャリア形成を支援し、当該学生が希望する卒業後の進路につなげていく。

(改善事項) 児童教育学部 児童教育学科

3. シラバスについて、以下の点を明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(1) 幼児理解の学問的な基盤である「教育方法論(幼)」において、根幹となる「子ども理解」に関する授業計画の説明が不十分なため、必要に応じて当該科目の授業計画の構成及び記載を適切に改めること。

(2) 「特別支援教育」「障がい児保育指導論」「教育相談」といった科目の説明も全般的に表面的な記載にとどまっているため、履修する学生の理解を促す観点から十分に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(3) シラバスの記載について、授業科目名称に付されているAとBの関連性が授業科目間で統一されていないなど、不備が散見されるため、網羅的に確認を行い、適切に改めること。

(対応)

(1)(2)への対応

付された意見に基づき、次の科目のシラバスを修正する。

「教育方法論(幼)」

「教育方法論(幼)」の根幹となる、「子ども理解」に関する授業計画を明確にすべく、「子ども理解」を扱う授業を、「教育方法論(幼)」の【第1回】【第2回】に設定する。【第1回】では、保育という営みを「子ども理解」との関係性から理解する内容とする。【第2回】では、保育を実践するための基盤となる「子ども理解」の重要性と、それを踏まえた保育実践について理解する内容、また、子ども理解を促すための具体的方法として、保育の観察・記録について学ぶ内容を扱うことを記載する。

「特別支援教育(幼・小)」

「特別支援教育(幼・小)」は、特別の支援を必要とする幼児・児童の学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して必要な知識や支援方法を理解することを目的としているが、シラバスに、幼児・児童が特別の支援を必要とする背景等について具体的に記載することで、履修する学生の理解を促す。

「障がい児保育指導論」

「障がい児保育指導論」は、将来、保育・教育現場で特別の支援を必要とする子どもに出会った際に、自らの力で課題解決ができる知識及び技能を習得できるようになることを目的としているが、シラバスに、保育・教育現場で特別の支援を必要とする子どもに関する具体的な状況を記載することで、履修する学生の理解を促す。

「教育相談(幼・小)」

「教育相談(幼・小)」は、幼児・児童に教育を実践する中で、幼児や児童の課題や困難を理解し、それらを支援する上で必要とされる教育相談の基本となる理論と方法および関

係者との連携・協働の基礎、態度を身につけることを目的としているが、シラバスに、教育活動における教育相談とは何か、その果たす役割を理解に関して、具体的な状況を記載することで、履修する学生の理解を促す。

以上の対応に基づいてシラバスを修正する。

(新旧対照表) シラバス「教育方法論(幼)」

新	旧
テーマ <u>幼児理解の学問的な基盤である「教育方法論」において、その根幹となる子どもの発達や学びの姿などの子ども理解に基づく保育・幼児教育の方法を理解し、保育を実践するための技術を身に付ける。</u> <略> 授業計画 ◆授業スケジュール <u>【第1回】子ども理解に基づく保育という営みについて</u> <u>保育実践の具体的事例から、子どもが主体的に環境にかかわりながら育つという乳幼児期の特徴を踏まえた、適切な子ども理解に基づく保育という営みについて理解を深める。</u> <u>【第2回】子ども理解について</u> <u>保育の基本となる子ども理解の重要性とそれに基づく保育実践について理解する。また子ども理解を促すための具体的方法として、保育の観察・記録について学ぶ。</u> <u>【第3回】幼児教育の基本①；遊びを中心とした保育について</u> 育みたい資質・能力と子どもの遊びとの関係について学ぶ。<u>具体的な事例から、遊びをととした子ども理解、及び遊びを中心とした指導について考える。</u> <u>【第4回】幼児教育の基本②；保育者の援助について</u> 保育実践における保育者の役割について学び、保育の実践事例から<u>子ども理解に即した具体的な環境構成や保育者の援助について考える。</u>	テーマ 子どもの多様な発達や学びの姿を捉えながら、それを支える保育の方法について理解し、保育を実践するための技術を身に付ける。 <略> 授業計画 ◆授業スケジュール <u>【第1回】ガイダンス：保育という営みについて</u> 保育実践の具体的事例から、子どもたちが主体的に環境にかかわりながら育つという乳幼児期の特徴とそこでの保育について理解を深める。 <u>【第2回】幼児教育の基本①；遊びを中心とした保育について</u> 育みたい資質・能力と子どもの遊びとの関係について学び、遊びを中心とした指導あり方について考える。 <u>【第3回】幼児教育の基本②；保育者の援助について</u> 遊びを中心とした保育における保育者の役割について学び、実践事例から具体的な援助方法について理解する。 <u>【第4回】子ども理解について</u> 保育における子ども理解の意義を理解する。また子ども理解を促すための具体的な方法について知り、実践する。

＜略＞ 授業計画 ◆予習・復習 【第1回】 予習：幼稚園教育要領第1章総則の第1～第4までを読み、<u>子ども理解と保育の基本的な構造</u>について調べる。 復習：<u>子ども理解に基づく保育について、具体的な事例を挙げて説明できるようにし、ノートにまとめる。</u> 【第2回】 予習：保育の記録にはどのような種類があるか調べておく。 復習：授業で学んだことを基にしながら、<u>子ども理解を目的とする保育の記録を具体例として書き、まとめる。</u> 【第3回】 予習：<u>テキストを読み乳幼児の発達の特徴と、それに基づく遊びの特徴について説明できるようにしておく。</u> 復習：授業で学んだことを基にし、遊び事例における<u>子どもの発達と環境構成</u>を考える。 【第4回】 予習：<u>テキストを読み子ども理解と保育者の援助の関係について、具体例を挙げながら説明できるように調べておく。</u> 復習：保育の実践事例から、<u>子ども理解に即した保育者の援助</u>について自分の考えをまとめる。	＜略＞ 授業計画 ◆予習・復習 【第1回】 予習：幼稚園教育要領第1章総則の第1～第4までを読み、保育の基本的な構造について調べる。 復習：保育実践を保育の構造から読み取り、考察する。 【第2回】 予習：テキストを読み乳幼児の遊びの特徴について説明できるようにしておく。 復習：授業で学んだことを基にし、遊び事例における環境構成を考える。 【第3回】 予習：テキストを読み 保育者の援助とは何か具体的に説明できるように調べておく。 復習：保育の実践事例から、保育者の援助について自分の考えをまとめる。 【第4回】 予習：保育の記録にはどのような種類があるか調べておく。 復習：授業で学んだことを基にしながら、保育の記録を書く。
---	--

(新旧対照表) シラバス「特別支援教育(幼・小)」

新	旧
テーマ 通常の学級にも在籍している特別の支援を必要とする幼児・児童、障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児・児童に対する理解を深め、<u>個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</u>	テーマ 通常の学級にも在籍している特別の支援を必要とする幼児・児童、障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児・児童に対する理解を深める。

<略> 授業要旨または授業概要 文部科学省(2012)の調査によると、通常の学級に知的発達に遅れはないものの学習面または行動面で著しい困難を示す児童・生徒が約6.5%の割合で在籍している。一方で、障害はないが、母国語、貧困、ジェンダー等の問題により特別の支援を必要とする幼児・児童も通常の学級に在籍している。その結果、幼児・児童が学習上または生活上の困難を感じているばかりでなく、教員自身もこれらの幼児・児童に対して必要にして十分な支援を行うことができていないという実態がある。教職を目指す学生が、これらの特別の支援を必要とする幼児・児童が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児・児童の学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することを目的とする。	<略> 授業要旨または授業概要 通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児・児童が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児・児童の学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解することを目的とする。
---	--

(新旧対照表) シラバス「障がい児保育指導論」

新	旧
授業要旨または授業概要 本科目は、4年次後期に設定されており、1年次の「障がい児保育」、2年次の「特別支援教育(幼・小)」の延長線上にある。また、この時期は、保育・教育実習を経て、卒業後の保育・教育現場への移行期であるともいえる。実際の保育・教育現場には、障がいを含め様々な特別の支援を必要とする子どもが在籍している。中には、音声言語を獲得できていない子ども、食事・排泄等日常生活動作を習得できていない子ども、離席・暴言・暴力を示す子どもや集団に参加できない子どももいる。このような子どもの発達課題や問題行動を改善し、適切な行動を形成するためには、これまでの経験や	授業要旨または授業概要 本科目は、4年次後期に設定されており、1年次の「障がい児保育」、2年次の「特別支援教育(幼・小)」の延長線上にある。また、この時期は、保育・教育実習を経て、卒業後の保育・教育現場への移行期であるともいえる。実際の保育・教育現場には、障がいを含め様々な特別の支援を必要とする子どもが在籍している。中には、離席・暴言・暴力を示す子どもや集団に参加できない子どももいる。このような子どもの問題行動を改善し、適切な行動を形成するためには、アセスメント、目標の設定、支援計画の作成、具体的な支援方法、評価、レポートの作成に関する具体的かつ科学的な知識

知識及び技能だけでは不十分であるといえる。 <u>特別の支援を必要とする子どもに対して効果的な支援を行うためには、アセスメント、目標の設定、支援計画の作成、具体的な支援方法、評価、レポートの作成等に関する具体的かつ科学的な知識及び技能が必要とされる。本科目では、将来、保育・教育現場で特別の支援を必要とする子どもに出会った際に、他の保育者や教員と連携しながら課題解決ができる知識及び技能を習得できるようになることを目的とする。</u>	及び技能が必要とされる。本科目では、将来、保育・教育現場で特別の支援を必要とする子どもに出会った際に、自らの力で課題解決ができる知識及び技能を習得できるようになることを目的とする。
---	--

(新旧対照表) シラバス「教育相談 (幼・小)」

新	旧
テーマ <u>社会の多様化・複雑化、高度情報化が進む中、登園渋り、不登校、いじめ、虐待、発達障害など子どもが抱える困難も複雑化・多様化している。教育相談は、一人ひとりの子どもの教育的課題、援助ニーズの適切な理解と支援を通して、子どもの成長・発達と人格の成長を支援する教育活動である。本講義では、子どもの発達と適応上の困難を適切に理解し支援するために必要な教育相談の基礎知識、意義と目的、理論と技法を身につける。さらに事例を通して子どもの困難の具体的理解と支援、保護者や関係者との連携・協働を学ぶ。これらを通して教育相談の意義・役割を理解する。</u> <略> 授業要旨または授業概要 <u>幼児・児童期は人生の基本・基礎となる時期であり、その後の人生に影響する大事な時期である。本講義は、近年、一層多様化、複雑化する幼児・児童期の子どもの適応上の困難や課題を適切に理解し、支援する上で必要な教育相談・カウンセリングの基本的理論、受容・傾聴・共感的理解等の基礎的姿勢や技法を学ぶ。さらに、不登校、いじめ、発達障害等の具体事例を通して、幼児・児童期の問題を適切に理解し、</u>	テーマ 教育活動における教育相談とは何か、その果たす役割を理解し、教育相談の理論と教育相談の方法に関する基本を理解し、実際の事例を理解し、対応の基本を身につける。 <略> 授業要旨または授業概要 人は、その一生、すなわち子どもから老人まで様々な変化と発達を遂げる。幼児・児童期はその人生の基本・基礎となる時期であり、その後の人生に様々な影響を及ぼす大事な時期である。一方、人はその変化と発達をとげる中で様々な課題と困難に出会う。本講義は幼児・児童に教育を実践する中で、幼児や児童が出会う様々な課題や困難を理解し、それらを支援する上で必要とされる教育相談の基本と

子どもや保護者への具体的支援、専門家、専門機関等との連携・協働を通じた組織的支援の基礎と態度を身につける。これらを通して人の成長と発達における幼児期・児童期の問題や不応の意味と教育相談の果たす意義・役割を理解する。 <略> 授業計画 ◆授業スケジュール 【第1回】オリエンテーション、子どもの問題とは 現代社会における子どもの現状、幼児・児童期の子どもの問題とは何かについて考える。<u>生涯発達の中での乳幼児期・児童期の子どもの発達の様相、急速な変化を遂げ続ける社会の中で、不登校、いじめ、児童虐待、子どもの貧困等、多様化、複雑化、早期化する乳幼児・児童期の子どもの問題・課題、家族関係、文化、社会の中の子どもという視点で子どもの問題を概説する。</u> 【第6回】教育相談における方法 教育相談を進める上での<u>受容、傾聴、共感的理解などの基本的態度、相談の進め方、教育相談の倫理、について概説する。</u>	なる理論と方法および関係者との連携・協働の基礎、態度を身につけることを目的とする。同時に幼児・児童の発達上の問題に関わる事例理解を通し、一人ひとりの発達の様相を思い描き、支援を通して人にとっての幼児期・児童期の意味と教育相談の果たす役割を理解することを目的とする。 <略> 授業計画 ◆授業スケジュール 【第1回】オリエンテーション、子どもの問題とは 現代社会における子どもの現状、幼児・児童期の子どもの問題とは何かについて考える。特に幼児・児童期の子どもの発達との関連、家族関係、文化、社会の中の子どもという視点で子どもの問題を概説する。 【第6回】教育相談における方法 教育相談を進める上での基本的態度、相談の進め方、教育相談の倫理、について概説する。
---	--

(3) への対応

本学のルールにおいて、学びの内容が並行的な科目は「A、B、・・・」、学びの内容が連続的な科目は「1、2、・・・」の名称を使用するように定められている。このルールに基づき、該当する全科目について、科目名と授業内容の見直しを行った。結果として、児童教育学部児童教育学科の授業科目のうち、名称にA、Bが付されている科目と扱う学びの内容は次のとおりである。

「入門ゼミナールA、B」は、Aにおいて、大学4年間での学びに必要なアカデミック・スキルや児童教育学科の学びを、Bにおいて、社会における教育・保育や教員・保育者の役割を中心に扱う。なお、この科目は大学全体の共通科目であり、他の学部・学科においても、同様の方針で行う科目である。

「保育内容研究A、B」は、Aにおいて、領域「言葉」と「音楽表現」を、Bにおいて、領域「健康」と「環境」を軸とする保育教材を扱う。

「音楽実習A、B」は、Aにおいて、「春～夏」の季節や行事に関する童謡を、Bにおいて、「秋～冬」の季節や行事に関する童謡を扱う。

「子育て支援演習A、B」は、Aにおいて、主に「親子関係の理解」「保護者理解」「子育て支援の役割理解」を、Bにおいて、主に「保護者支援」「親子支援」を扱う。

「海外教育体験A、B」は、Aにおいて、デンマークの保育園・小学校等、Bにおいて、タイの保育園・小学校等での体験を扱う。

「接続期カリキュラム研究A、B」は、Aにおいて、幼稚園年長児後半の「アプローチカリキュラム」を、Bにおいて、小学校1年生入学当初の「スタートカリキュラム」を扱う。

「教育・保育インターンシップA、B」は、教育・保育現場での実践活動をととして、Aにおいて、「多様な子どもの発達と学びの理解」と「それに基づく教育・保育実践力」の確認及びその資質能力の向上を、Bにおいて、「多様な子どもの発達と学びを踏まえた構想・実践」にかかわる、自らの「教育・保育構想力及び教育・保育実践力」の確認と更なる資質能力の向上を目指す。

「発展ゼミナールA、B」は、Aにおいて、2年次までの学びから生じた自らの課題意識を明確化し、その解決に向けた研究テーマの設定の仕方及び研究内容・方法を身につけ、Bにおいて、研究テーマを設定して研究活動を進める。

「卒業研究A、B」は、Aにおいて、「発展ゼミナールB」での研究活動の成果を発表して研究計画を修正し、Bにおいて、研究活動の成果を「卒業研究レポート（論文）」としてまとめる。

以上を踏まえ、学内ルールに基づき、学びの内容が並行的な科目は「A、B、・・・」、学びの内容が連続的な科目は「1、2、・・・」として、再度、確認・整理した結果、「発展ゼミナールA、B」及び「卒業研究A、B」は、大学4年間の学びの集大成である「専門発展科目」の「7卒業研究科目群」を連続して構成する科目であり、研究活動の成果を「卒業研究レポート（論文）」にまとめる一連の学びの内容であるため、科目名称を「発展ゼミナール1、2」、「卒業研究1、2」に修正する。

以上の対応に基づいて、設置申請書の各様式において科目名称の変更を反映する。

(改善事項) 児童教育学部 児童教育学科

4. 実習について、以下の点が不明確であるため、明確に説明するとともに、必要に応じて適切に改めること。

(1) 実習に参加する学生の規模や実習参加の決定プロセス、指導体制等が不明確であるため、明確に説明すること。

(2) 実習の評価について、実習担当教員が「総合的に判断し、単位認定を行う」旨の説明があるが、評価の客観性が担保されているか不明確であるため、具体的かつ明確に説明すること。

(対応)

(1) への対応

各実習に参加する学生の規模について、次のとおり想定している。

「学校体験活動」は、2年次前期に開講され、学生の将来の進路の決定時期と重なることから、多くの学生が履修すると思われるため、135名程度を想定している。

「教育実習（幼稚園）」、「教育実習（小学校）」、「保育実習1（保育園）」、「保育実習1（施設）」、「保育実習2」は、2年次後期から4年次にかけて開講され、学生の将来の進路に基づいて実践を行い資格取得にもつながる科目であるため、各科目80名程度を想定している。

実習参加のプロセスについては、参加希望学生の免許資格に関わる科目の履修状況、学修成果評価結果（達成度）、面談カウンセリング記録等に基づき、参加希望学生の指導教員と個別で面談を行い、教育・保育に対する熱意や意欲を確認したうえで、児童教育学部の実習委員会で審議し、専任教員全員による実習参加の可否を確認して参加が決定する。

実習の指導体制について、学生の実習の参加決定や実習に係る指導の全体的な運営等を児童教育学部のすべての専任教員により構成する実習委員会が行い、実習の事前事後指導、成績評価等の実習指導の中心部分は、実習科目を担当する教員が担う。さらに実習中の巡回指導は、児童教育学部の専任教員で分担する。以上により、複数の教員による組織的な実習指導体制となっている。

(2) への対応

実習の評価は次の方法により行う。

実習担当教員は、実習先からの評価と、学生から児童教育学部に提出された「実習日誌」と「事後レポート」の評価を合わせ、実習の各科目のシラバスに明示されている「学修成果」の観点毎の評価比率、評価方法により、「学修の到達目標」に準じた各「評価項目」と「総合評価」について、「A：十分できている／B：できている／C：努力を要する／D：かなり努力を要する」の4段階で評価する。

なお、実習担当教員は複数の教員で構成されており、評価の最終決定にあたっては、担当教員全員による最終確認を行い、妥当性を確認したうえで単位認定することにより、評価の客観性を担保する。

以上の対応に基づき、「設置の趣旨等を記載した書類」を修正・追記する。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した書類 (40～47 ページ)

新	旧
6 実習の具体的計画 <略> 2. 実習の種類 児童教育学科で実施される学外実習は、取得する免許・資格に応じて、以下の6つの実習科目を展開する。 <u>なお、各実習に参加する学生の規模について、次のとおり想定している。</u> <u>「学校体験活動」は、2年次前期に開講され、学生の将来の進路の決定時期と重なることから、多くの学生が履修すると思われるため、135名程度を想定している。</u> <u>「教育実習(幼稚園)」、「教育実習(小学校)」、「保育実習1(保育園)」、「保育実習1(施設)」、「保育実習2」は、2年次後期から4年次にかけて開講され、学生の将来の進路に基づいて実践を行い資格取得にもつながる科目であるため、各科目80名程度を想定している。</u> <略> 5. 実習水準の確保の方策 教育実習及び保育実習を履修するにあたっては、次のような基準を設定し、それを満たしていることが実習参加の条件となる。 <略> <u>なお、実習参加のプロセスについては、参加希望学生の免許資格に関わる科目の履修状況、学修成果評価結果(達成度)、面談カウンセリング記録等に基づき、参加希望学生の指導教員と個別で面談を行い、教育・保育に対する熱意や意欲を確認したうえで、児童教育学部の実習委員会で審議し、専任教員全員による実習参加</u>	6 実習の具体的計画 <略> 2. 実習の種類 児童教育学科で実施される学外実習は、取得する免許・資格に応じて、以下の6つの実習科目を展開する。 <略> 5. 実習水準の確保の方策 教育実習及び保育実習を履修するにあたっては、次のような基準を設定し、それを満たしていることが実習参加の条件となる。また、児童教育学部のe-ポートフォリオシステムの「履修カルテ」(免許資格にかかわる科目履修状況、学修成果習得状況、面談カウンセリング記録等)におけるそれまでの履修状況に基づいて面談を行い、教育・保育に対する熱意や意欲を確認したうえで、児童教育学部教授会の審議を経て、実習参加の可否を決定する。 <略>

の可否を確認して参加が決定する。

実習の指導体制について、学生の実習の参加決定や実習に係る指導の全体的な運営等を児童教育学部のすべての専任教員により構成する実習委員会が行い、実習の事前事後指導、成績評価等の実習指導の中心部分は、実習科目を担当する教員が担う。さらに実習中の巡回指導は、児童教育学部の専任教員で分担する。以上により、複数の教員による組織的な実習指導体制となっている。

<略>

1 1. 成績評価体制及び単位認定方法

<略>

実習の評価は次の方法により行う。

実習担当教員は、実習先からの評価と、学生から児童教育学部に提出された「実習日誌」と「事後レポート」の評価を合わせ、実習の各科目のシラバスに明示されている「学修成果」の観点毎の評価比率、評価方法により、「学修の到達目標」に準じた各「評価項目」と「総合評価」について、「A：十分できている／B：できている／C：努力を要する／D：かなり努力を要する」の4段階で評価する。

なお、実習担当教員は複数の教員で構成されており、評価の最終決定にあたっては、担当教員全員による最終確認を行い、妥当性を確認したうえで単位認定することにより、評価の客観性を担保する。

<略>

1 1. 成績評価体制及び単位認定方法

<略>

実習評価は、各項目及び総合評価について、「A：十分できている／B：できている／C：努力を要する／D：かなり努力を要する」の4段階により評価できるようにし、実習先から実習評価と、実習生から児童教育学部に提出された「実習日誌」と「事後レポート」の評価を合わせ、実習担当教員で総合的に判断し、単位認定を行う。

(改善事項) 児童教育学部 児童教育学科

5. 専任教員の年齢構成が高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、若手教員の採用計画など教員組織の将来構想を明確にすること。

(対応)

児童教育学部児童教育学科の専任教員は、教授9名、准教授6名、講師5名、助教1名で構成され、完成年度における年齢構成は、下表のとおりとなる。

表 児童教育学科専任教員の職位別年齢構成（完成年度・令和7年）

職位\年齢	30～39	40～49	50～59	60～64	65～	小計（人）
教 授			3	2	4（4）	9
准教授		2	2	2（2）		6
講 師	1	3	1			5
助 教					1（1）	1
小 計	1	5	6	4	5	21
構成比率（％）	4.8	23.8	28.6	19.0	23.8	

※（ ）内は（高）の教員数

完成年度後の教員組織の計画について、定年を超えた教員の補充に関して、令和10年度完了として、次のとおり30～40歳代の若手教員を含む後任の補充計画を策定している。

対象者	採用 予定年度	採用条件等
教員B（教授 67歳） 主な担当：「初等社会科教育 法」	令和10年度	修士もしくは博士の学位を有する30歳代で、教職課程の「教科及び教科の指導法（社会科）」を専門分野とし、講師レベルの教育研究業績を有すると認められる者
教員P（教授 70歳） 主な担当科目：「教育課程論 （幼・小）」	令和8年度	修士もしくは博士の学位を有する50歳代で、教職課程の「教育学・カリキュラム論」を専門分野とし教授レベルの教育研究業績を有すると認められる者
教員E（教授 69歳） 主な担当科目：「教育相談 （幼・小）」	令和9年度	修士もしくは博士の学位を有する50歳代で、教職課程の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（教育相談）」を専門分野とし、教授レベルの教育研究業績を有すると認められる者
教員I（教授 69歳） 主な担当科目：「特別支援教 育（幼・小）」	令和9年度	修士もしくは博士の学位を有する40歳代で、教職課程の「教育の基礎的理解に関する科目（特別支援教育）」を専門分野とし、准教授レベルの教育研究業績を有すると認められる者
教員A（准教授 62歳） 主な担当科目：「初等生活」	令和10年度	修士もしくは博士の学位を有する30歳代で、教職課程の「教科教育学（生活科）」を専門分野とし、講師レベルの教育研究業績を有すると認められる者
教員N（准教授 64歳）	令和8年度	修士もしくは博士の学位を有する40歳代で、教職課程の

主な担当科目：「教職論（幼・小）」		「教育の基礎的理解に関する科目」（教職の意義及び教員の役割・職務内容）を専門分野とし、准教授レベルの教育研究業績を有すると認められる者
教員H（助教 65 歳） 主な担当科目：「保育実習 1（保育園）」	令和 8 年度	30 歳代で、保育園の実務に関して経験実績を有し、助教レベルの教育研究業績を有すると認められる者

また、開設から完成年度までの研究活動成果・研究業績を踏まえ、完成年度後、准教授 2 名の教授への昇格、講師 4 名の准教授への昇格が想定される。

この昇格と先に述べた後任の補充計画を反映した、令和 10 年度における年齢構成は下表のとおりであり、年齢構成が高齢に偏らない、教育研究の継続に支障のない教員組織とする計画である。

表 児童教育学科専任教員の職位別年齢構成（令和 10 年度）

職位\年齢	30～39	40～49	50～59	60～64	65～	小計（人）
教 授			7		2（2）	9
准教授		5	3			8
講 師	3					3
助 教	1					1
小 計	4	5	10		2	21
構成比率（％）	19.1	23.8	47.6		9.5	

※（ ）内は（高）の教員数

以上の対応に基づいて、「設置の趣旨等を記載した書類」を修正・追記する。

（新旧対照表）設置の趣旨等を記載した書類（53～55 ページ）

新	旧
9 教員組織の編成の考え方及び特色 <略> 2. 教員組織構成と組織の特色 1) 教育組織の年齢構成 <略> なお、完成年度における教員組織の年齢構成は下表のとおりである。 表 児童教育学科専任教員の職位別年齢構成（完成年度・令和 7 年）	9 教員組織の編成の考え方及び特色 <略> 2. 教員組織構成と組織の特色 1) 教育組織の年齢構成 <略> なお、完成年度における教員組織の年齢構成は下表のとおりである。 表 児童教育学科専任教員の職位別年齢構成（完成年度・令和 7 年）

職位\年齢	30～39	40～49	50～59	60～64	65～	小計 (人)
教 授			3	2	4 (4)	9
准教授		2	2	2 (2)		6
講 師	1	3	1			5
助 教					1 (1)	1
小 計	1	5	6	4	5	21
構成比率 (%)	4.8	23.8	28.6	19.0	23.8	

※（ ）内は（高）の教員数

本学の定年年齢は、「学校法人東海大学教職員定年規程」のとおりであり、完成年度までに定年を迎える教員が7名（教授4名、准教授2名、助教1名）いるが、「学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規」第2条別表の規定に基づき、定年退職後も特任教員として再採用し、下表のとおり、採用予定年度の前年度まで雇用することについて、「東海大学教員人事委員会」で承認されている。【資料6】参照

なお、完成年度において定年を迎える教員が、専任教員全体の23.8%となるが、これは次に述べる「特化プログラム」に最低1名の“豊かな現場経験を持つ教員”を配置した結果である。加えて、児童教育学部が目指す教育体制を構築するため、“大学設置基準上の必要専任教員数を大幅に超える教員を配置したこと”も一つの要因になっている。

その結果として、割合的には完成年度までに、定年を迎える教員が20%を超える状況になるが、次に述べる具体的な計画より、年齢構成のバランスをとっていく計画である。

完成年度後の教員組織の計画について、定年を超えた教員の補充は、令和10年度完了として、次のとおり30～40歳代の若手教員を含む後任の補充計画を策定している。

職位\年齢	30～39	40～49	50～59	60～64	65～70	小計 (人)
教 授			3	2	4 (3)	9
准教授		2	2	1 (1)		5
講 師	1	4	1			6
助 教					1 (1)	1
小 計	1	6	6	3	5	21
構成比率 (%)	4.8	28.6	28.6	14.3	23.8	

※（ ）内は（高）の教員数

本学の定年年齢は、「学校法人東海大学教職員定年規程」のとおりであり、完成年度までに定年を迎える教員が5名（教授3名、准教授1名、助教1名）いるが、「学校法人東海大学大学・短大特任教員任用内規」第2条別表の規定に基づき、定年退職後も特任教員として再採用し、下表のとおり、採用予定年度の前年度まで雇用することについて、「東海大学教員人事委員会」で承認されている。【資料6】参照

完成年度後の教員組織の計画については、令和7年度の完成年度以降において、中堅・若手教員の教育・研究能力の育成を踏まえて昇格を目指すとともに、定年を超えている教員については、次のとおり後任の補充計画を策定している。

対象者	採用 予定年度	採用条件等
教員B（教授 67歳） 主な担当科目：「初等社会科教育法」	令和10年度	修士もしくは博士の学位を有する30～50歳代で、教職課程の「教科及び教科の指導法（社会科）」を専門分野とし、教授レベルの教育研究業績を有すると認められる者
教員E（教授 69歳） 主な担当科目：「教育相談（幼・小）」	令和9年度	修士もしくは博士の学位を有する30～50歳代で、教職課程の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（教育相談）」を専門分野とし、教授レベルの教育研究業績を有すると認められる者
教員I（教授 69歳） 主な担当科目：「特別支援教育（幼・小）」	令和9年度	修士もしくは博士の学位を有する30～50歳代で、教職課程の「教育の基礎的理解に関する科目（特別支援教育）」を専門分野とし、教授レベルの教育研究業績を有すると認められる者
教員N（准教授 64歳） 主な担当科目：「保健論（幼・小）」	令和8年度	修士もしくは博士の学位を有する30～50歳代で、教職課程の「教育の基礎的理解に関する科目」（教職の意義及び教員の役割・開発内容）を専門分野とし、教授もしくは准教授レベルの教育研究業績を有すると認められる者
教員H（助教 65歳） 主な担当科目：「保育実習1（保育園）」	令和8年度	50歳代で、保育園の実践及び指導者の立場に関して豊富な経験実績を有し、講師もしくは助教レベルの教育研究業績を有すると認められる者

この計画に基づき、他大学の現職教員、大学院に在学している者等から広く候補者を募り、本学の教員採用基準に照らし合わせた厳格な審査のもと、採用を行い、開設時の教育水準の維持・向上を図る。

対象者	採用 予定年度	採用条件等
教員B（教授 67歳） 主な担当：「初等社会科教育法」	令和10年度	修士もしくは博士の学位を有する30歳代で、教職課程の「教科及び教科の指導法（社会科）」を専門分野とし、講師レベルの教育研究業績を有すると認められる者
教員P（教授 70歳） 主な担当科目：「教育課程論（幼・小）」	令和8年度	修士もしくは博士の学位を有する50歳代で、教職課程の「教育学・カリキュラム論」を専門分野とし、教授レベルの教育研究業績を有すると認められる者
教員E（教授 69歳） 主な担当科目：「教育相談（幼・小）」	令和9年度	修士もしくは博士の学位を有する50歳代で、教職課程の「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（教育相談）」を専門分野とし、教授レベルの教育研究業績を有すると認められる者
教員I（教授 69歳） 主な担当科目：「特別支援教育（幼・小）」	令和9年度	修士もしくは博士の学位を有する40歳代で、教職課程の「教育の基礎的理解に関する科目（特別支援教育）」を専門分野とし、准教授レベルの教育研究業績を有すると認められる者
教員A（准教授 62歳） 主な担当科目：「初等生活」	令和10年度	修士もしくは博士の学位を有する30歳代で、教職課程の「教科教育学（生活科）」を専門分野とし、講師レベルの教育研究業績を有すると認められる者
教員N（准教授 64歳） 主な担当科目：「教職論（幼・小）」	令和8年度	修士もしくは博士の学位を有する40歳代で、教職課程の「教育の基礎的理解に関する科目」（教職の意義及び教員の役割・職務内容）を専門分野とし、准教授レベルの教育研究業績を有すると認められる者
教員H（助教 65歳） 主な担当科目：「保育実習1（保育園）」	令和8年度	30歳代で、保育園の実務に関して経験実績を有し、助教レベルの教育研究業績を有すると認められる者

この計画に基づき、他大学の現職教員、大学院に在学している者等から広く候補者を募り、本学の教員採用基準に照らし合わせた厳格な審査のもと、採用を行い、開設時の教育水準の維持・向上を図る。

また、開設から完成年度までの研究活動成果・研究業績を踏まえ、完成年度後、准教授2名の教授への昇格、講師4名の准教授への昇格が想定される。

この昇格と先に述べた後任の補充計画を反映した、令和10年度における年齢構成は下表のとおりであり、年齢構成が高齢に偏らない、教育研究の継続に支障のない教員組織とする計画である。

なお、完成年度において定年を迎える教員が、専任教員全体の23.8%となるが、これは次に述べる「特化プログラム」に最低1名の“豊かな現場経験を持つ教員”を配置した結果である。加えて、児童教育学部が目指す教育体制を構築するため、“大学設置基準上の必要専任教員数を大幅に超える教員を配置したこと”も一つの要因になっている。

その結果として、割合的には完成年度までに、定年を迎える教員が20%を超える状況になるが、今後の採用計画や、児童教育学部の教育研究活動を継続し、様々な研究成果やノウハウを蓄積・反映していくことにより、上表のとおり年齢構成のバランスをとっていく計画である。

表 児童教育学科専任教員の職位別年齢構成
(令和10年度)

職位\年齢	30～39	40～49	50～59	60～64	65～	小計(人)
教授			7		2(2)	9
准教授		5	3			8
講師	3					3
助教	1					1
小計	4	5	10		2	21
構成比率(%)	19.1	23.8	47.6		9.5	

※ () 内は(高)の教員数

(改善事項) 児童教育学部 児童教育学科

6. 定員充足の根拠となる客観的なデータとして、近隣大学の教員・保育者養成系学部の志願状況を挙げているが、設置の必要性において当該地域には教員・保育者養成系学部を持つ大学が設置されていないと説明を行っていることとの整合性が必ずしも明確ではないため、その整合性について具体的に説明すること。

(対応)

意見が付された内容について、次のとおり整合していることを説明する。

「設置の趣旨等を記載した書類」において、児童教育学部の設置の必要性として、神奈川県の湘南地域（藤沢市、平塚市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市）及び県西地域（小田原市、足柄市）に教員・保育者養成系学部を持つ大学（４年制）がないため、神奈川県における教員・保育者養成機関の偏在を是正し、平塚市及び秦野市の要望に応えることを説明している。

「学生確保の見通し等を記載した書類」において、児童教育学部が設置される東海大学の湘南キャンパス（平塚市）の在学生の９割は首都圏（神奈川県、東京都、千葉県）からの学生であり、特に地元神奈川県内の全体の５割程度を占めていることから、「神奈川県」と「全国」の二つの観点を軸に、児童教育学部の定員充足の見込みを分析している。

「神奈川県」については、県内の高校生の大学志願状況と、県内に所在する児童教育学部と同じ他の４年制大学の教員・保育者養成系学部の志願状況の分析を行った。

分析を行うにあたり、先に述べたとおり、児童教育学部を設置する予定の湘南キャンパス（平塚市・秦野市）を含む神奈川県の湘南地域（藤沢市、平塚市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市）及び県西地域（小田原市、足柄市）に教員・保育者養成系学部を持つ大学（４年制）がないため、神奈川県、湘南地域・県西地域以外の地域に所在する教員・保育者養成系学部の志願状況を定員充足の根拠となる客観的なデータとして挙げている。挙げた大学学部学科の所在地は次のとおりである。

- ① 國學院大學人間開発学部初等教育学科・子ども支援学科－横浜地域（横浜市）
- ② 明治学院大学心理学部教育発達学科－横浜地域（横浜市）
- ③ 関東学院大学教育学部こども発達学科－横浜地域（横浜市）
- ④ 桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部スポーツ教育学科－横浜地域（横浜市）
- ⑤ 横浜創英大学こども教育学部幼児教育学科－横浜地域（横浜市）
- ⑥ 東洋英和女学院大学人間科学部保育子ども学科－横浜地域（横浜市）
- ⑦ 田園調布学園大学子ども未来学部子ども未来学科－川崎地域（川崎市）
- ⑧ 鎌倉女子大学児童学部児童学科・子ども心理学科、教育学部教育学科－横須賀三浦地域（鎌倉市）
- ⑨ 相模女子大学学芸学部子ども教育学科－県央地域（相模原市）
- ⑩ 松蔭大学コミュニケーション文化学部子ども学科－県央地域（厚木市）

以上の対応に基づき、説明の整合性が明確となるよう、「学生の確保等の見通しを記載した書類」を修正する。

(新旧対照表) 学生確保の見通し等を記載した書類 (4 ページ)

新	旧
3) 教員・保育者養成系学部の志願状況[神奈川県] <u>神奈川県の教員・保育者養成系学部の志願状況の分析を行うにあたり、児童教育学部を設置する予定の湘南キャンパス（平塚市・秦野市）を含む神奈川県の湘南地域（藤沢市、平塚市、茅ヶ崎市、秦野市、伊勢原市）及び県西地域（小田原市、足柄市）において、教員・保育者養成系学部を持つ大学（4年制）がないため、神奈川県の湘南地域・県西地域以外の地域に所在する教員・保育者養成系学部の志願状況を定員充足の根拠となる客観的なデータとして挙げる。</u> 小学校教諭養成課程、幼稚園教諭養成課程、および指定保育士養成施設を持つ大学の当該学部・学科の充足率（<u>2020年</u>5月）は以下のとおりである。	3) 教員・保育者養成系学部の志願状況[神奈川県] 児童教育学部を設置する予定の湘南キャンパス（平塚市・秦野市）の近隣大学のうち、小学校教諭養成課程、幼稚園教諭養成課程、および指定保育士養成施設を持つ大学の当該学部・学科の充足率（平成 20 年 5 月）は以下のとおりである。

7. 付された意見以外の対応について

(1)「国際理解教育」

「国際理解教育」は、申請時において、専任教員1名と兼任教員1名により担当する計画であったが、教員審査において、専任教員1名の担当について保留の判定を受けた。改めて学内で検討した結果、専任教員1名の担当については補充を行わず、「国際教育理解」は、兼任教員1名のみの担当とすることとした。

「国際理解教育」は、日本社会の国際化と教育分野における国際理解教育を取り上げ、具体的事例を通じて、異なる文化をもつ人々（子ども・保護者）を受容・理解する気持ちや共生する態度を養うと同時に、相互理解を図る力や共生社会に生きるための協働力と自己発信力を身につけさせ、複数の言語・文化の中で育ち、ことばを獲得していくことで養うことができる能力について知るとともに、留意すべき点や課題についても触れる科目である。

「国際理解教育」担当する兼任教員（獄肩志江）は、修士（人文科学）の学位を持ち、日本語教育に係る著書1件、日本語教育及び在日外国人児童等に関する学術論文・調査報告17件、学会発表16件の業績を有し、複数の大学等で日本語教育に係る人材養成に携わっている研究者であるため、この科目を教授するに十分な資質を有している。

また、「国際教育理解」は3年次に開講する選択科目であり、50名程度の履修者数を想定しているため、兼任教員1名による担当となっても授業運営、教育効果に支障はない。

以上